

此官吏ト警察官トノ間ノ權限ハ各連邦ニ於テ之ヲ定ムヘシ
此官吏ハ毎年其爲シタル事務ノ報告書(普國ニテハ縣令ニ差出ス
ナリ)ヲ差出スヘシ其報告書又ハ拔萃ヲ上院及ヒ下院ニ示スヘシ
連邦政府ノ申立ニ因テハ全ク製造場無キ地カ又ハ製造ノ盛ナラサ
ル地方ニ於テハ上院ノ決議ニ因リ別段ノ官吏ヲ命スルニ及ハス第
百三十五條ヨリ第三百三十九條①マテ及ヒ第二百二十條三項ノ規則ニ
從テ爲スヘキ製造場ノ検査ハ何時ナリトモ(假令夜間ト雖モ)其運
轉中ハ營業者ヨリシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八篇 營業上ノ救助貯蓄所

第一百四十條 地方規則又ハ行政官ノ命令ニ因テ已ニ獨立スル營業者
ヨリ其組合内又ハ其組合ニ關係セスシテ設ケタル疾病用意貯蓄所

死後ノ用意貯蓄所、又ハ非常用意貯蓄所、ニ必ス出金セシム可キ義
務ハ廢止スル者トス其他貯蓄所ノコトニ付テハ此規則ニ因テ變セラ
ル、コトナシ

必ス出金スヘキ義務ノミヲ廢シ其他貯蓄所ノ爲メ命令規則アル
分ハ變スルコトナシ

前項ニ記載シタル目的ノ爲メ新タニ設クル貯蓄所ハ行政官ノ(縣
廳ナリ)許可ニ因テ法律上人ト看做スヘキ者ノ義務ヲ有ス但行政
官ノ許可ハ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ得ルニ政府ノ許可ヲ
得ヘキ場合ニ限ルヘシ

第一百四十一條 本條ハ千八百七十六年四月八日ノ法律ニ因リ廢セラ
レ更ニ第一百四十一條及ヒ第一百四十一條ノ①ヨリ②マテヲ設ケリ則

チ左ノ如シ

地方規則(村ナリ)ニハ手傳人及ヒ製造場ノ職人ヲ救助スル爲メ千八百七十六年四月七日ノ登記貯蓄所規則ニ從テ貯蓄所ヲ設クヘキ箇條ヲ掲クルコトヲ得

此場合ニ於テハ村官ハ登記貯蓄所規則ニ從テ關係者(手傳人職人)ヲ聞糺シタル後貯蓄所ノ方法ヲ定メ且其管理ヲ確實ナラシムヘシ

①地方規則ニ因テ十六歳以上ノ手傳人及ヒ製造場ノ職人ヲ村官ヨリ定メタル貯蓄所ニ加入スヘキ義務ヲ負擔セシムルコトヲ得
前項ノ貯蓄所ニ加入スヘキ義務又ハ之ヨリ離ル可カラサル義務ハ他ノ登記貯蓄所ニ加入シタルコトヲ證明シタルニ非サレハ免カ

ル、コトヲ得ス

加入スヘキ義務ヲ怠テ後ニ加入スル者ハ其怠リタル期限内中納ム可キ出金ヲ仍ホ出サシムヘシ

②連邦中ノ法律ニ因テ村官ノ命令ニ從ヒ疾病ノ時ニ救助ヲ受クル爲メ已ニ出金ヲ爲セル手傳人及ヒ製造場ノ職人ニハ地方ノ規則ニ依リ登記貯蓄所ニ加入スヘキ義務ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

③地方規則ニ於テ左ノ條件ヲ定ムルコトヲ得

第一 獨立スル營業者ハ團結官署ヨリ定メタル貯蓄所ニ加入スヘキ職人ノ出金ヲ爲スヘキ爲メ其拂フヘキ賃錢ノ半額ニ至ルマテヲ前以テ職人ニ貸シ與ヘキコト但職人ノ賃錢拂ヲ受クル前ニ出金スヘキ期限ノ來リタル日ニ限ル

營業規則

第二 製造場所所有者ハ其職人ノ出金高ノ半額ニ至ルマテヲ加増シテ出スヘキヲ

第三 獨立スル營業者ハ貯蓄所ニ加入スヘキ義務アル職人ヲ其貯蓄所ニ報告スルヲ其報告ヲ怠リタル者ハ其怠リ中ノ出金ヲ營業者ヨリ拂フヘキヲ

③ 第四百十一條ノ①第三項及ヒ④第三ニ掲ケタル貯蓄所ヨリ怠納金ヲ求ムル權ハ一年ニテ期滿免除ト爲ルヘシ其期限ハ曆表ニ從テ其翌年一月ヨリ始ムルモノトス

⑥ 又村ヨリ大ナル自治團結郡區州ニ於テモ前數條ニ從テ其團結ノ官署ヨリ管轄内ノ全部又ハ一部ニ登記貯蓄所ヲ設ケ手傳人及ヒ製造場ノ職人ニ其貯蓄所ニ加入スヘキ義務ヲ負擔セシムルヲ

得

⑦ 礦山、砂石、アスハルトノ類ヲ掘出ス坑ニ使役スル職人ノ爲メニハ他ノ法律ニ於テ貯蓄所ヲ設ケ之ニ加入スヘキ義務ヲ定メスト雖モ仍ホ第四百十一條⑤ニ至ルマテノ規則ニ從フヘシ是等ノ營業者ハ製造場所所有者ト同一視スヘシ(第四百十一條ノ②ノ第二)

礦坑規則ニ從テ設ケタル貯蓄所ニ加入セシ職人ト礦坑所有者ニハ第四百十一條ノ⑥ニ至ルマテノ規則ヲ適用スルヲ得ス

第九篇 地方規則ノ下

第四百十二條 地方規則ニハ法律ニ因テ委托セラレタル營業上ノ事

營業規則

柄ヲ定ムルコトヲ得但其規則ハ法律ト同一ノ効ヲ有ス其規則ハ關係セシ營業者ヲ聞糺シ團結ノ決議ニ因テ之ヲ確定スヘシ且上等行政官ノ許可ヲ受クヘシ(縣輔佐官)

政府ハ法律ニ抵觸スル規則ヲ廢棄スルノ權アリ

第十篇 罰則

第四百十三條 營業ヲ爲スコトヲ得ル權利ハ司法官ノ判決又ハ行政官ノ判決ニ因テモ之ヲ取上クルコトヲ得ス但營業ノ許可ヲ取上ケ及ヒ此規則ニ從ヒ營業ヲ禁スル者ハ格別ナリトス(第十五條第二項第三十五條)

租稅規則ニ於ケル取除ハ其規則ノ効力ヲ有スル間ハ其儘存スル者トス

燒酎稅規則五十二條五十三條鹽稅規則第十四條ニ其稅ヲ拂ハサ

ルハ其營業ヲ禁スルコトアリ

又連邦中ノ法律ニ於テ新聞條例ニ抵觸シタル者ニ裁判判決ニ因テ營業權ヲ取上クル者ハ格別ナリトス

連邦中ノ法律ニ於テ印刷權ヲ行政官ヨリシテ取上クル規則ハ之ヲ廢止スヘシ

第四百十四條 營業者カ其義務ヲ盡サルカ爲メ此規則ニ定ムルヨリハ他ノ罰ヲ受クヘキヤ否ハ他ノ法律ニ從テ之ヲ判定スヘシ但營業權ヲ取上クヘキ規則ハ格別ナリトス(第四百十三條)

然レモ醫師病者ノ招キニ應セサルル之ニ罰金ヲ科ス可キ法律ハ廢止スヘシ

第四百四十五條 刑ノ最寡數、罰金ヲ禁獄ニ折算法及ヒ第五百十三條ノ輕罪期滿免除ニ付テハ各連邦ノ法律ニ從フヘシ（今日ハ獨逸刑法ニ從フヘシ）

此篇ニ掲クル所犯ハ三月ニテ期滿免除ト爲ルヘシ其期限ハ所犯ノ日ヨリ起算スヘシ

左ニ掲クル場合ニ於テハ二千「マルク」マテノ罰金無力ナルハ六箇月マテノ禁獄ニ處スヘシ（千八百七十八年七月十七日改正）

一 賃錢ヲ拂フコ又ハ職人ニ品物ヲ賣ルコニ付キ第百十五條ニ背キタル營業者

二 第百三十五條第百三十六條ニ背キ又ハ第百三十九條第百三十九條①ニ從テ發シタル命令ニ背キ婦女ノ職人又ハ幼年ノ

職人ヲ使用スル營業者

罰金ハ第百十六條ニ掲ケタル貯蓄所ニ沒收スヘシ

第四百四十七條 左ニ掲クル所爲アル者ハ三百「マルク」以下ノ罰金ヲ科スヘシ無力ナルハ拘留ニ處スヘシ（千八百七十八年七月十七日改正）

第一 坐商ノ營業ヲ獨立シテ爲ス者カ其營業ヲ始ムル時警察官ノ許可ヲ要スヘキ場合ニ其許可ヲ得スシテ營業ヲナスカ又ハ許可ヲ受クルハ制限ヲ加ヘラレタルヲ其制限ニ從ハスシテ營業ヲ爲セシハ

第二 製造場ヲ設クルハ其位置又ハ其製造所ノ模様ニ付キ特別ノ許可（第十六條第二十四條）ヲ要スヘキニ其許可ナクシテ製

營業規則

造場ヲ設クルキ又ハ許可ヲ受クルキハ制限ヲ加ヘラレタルヲ其肝要ナル制限ヲ守ラサルキ又ハ更ニ許可ヲ受クルコトナクシテ製造場ニ著シキ改造ヲ爲スカ又ハ製造場ヲ轉遷スルカ又ハ製造器械ノ運轉ニ著シキ改變ヲ爲ス時(著シキトハ之ヲ張大ニシテ危害ヲ増スヘキ場合ヲ云フ小ナル改變ハ止タ届ヲ爲スノミニシテ罰スルコトナシ)

第三 免許狀ヲ受ケスシテ自カラ醫師ト稱スルカ(内科外科眼科産醫齒醫獸醫)又ハ其他ノ名義ヲ以テ試験ヲ受ケシ醫師タルコトヲ欺ク時

第四 官署ノ命令ヲ奉セスシテ第二百二十條ニ背キタル者其所爲カ同時ニ租稅規則ニ背クキハ之カ爲メニ別段ニ罰ヲ科スル

コトナシト雖モ本條ノ罰ヲ決定スルキニ於テ其罰ヲ加入シテ科スヘシ

第二ノ場合ニ於テハ警察官ハ(地方警察官)製造場ヲ取拂ヒ又ハ許可セシキノ制限ノ如ク爲サシムルコトヲ得

第百四十八條 左ニ掲クル所爲アル者ハ百五十「マルク」以下ノ罰金ヲ科スヘシ無力ナルキハ四週間内ノ拘留ニ處スヘシ(同年月日改正)

第一 前條ニ掲ケタル場合ノ外ニ坐商ノ營業ヲ届出ツヘキ場合ニ届出スシテ營業ヲ爲ス時

第二 第十四條ニ定メタル火災保險仲人ノ届出ヲ怠タルキ

第三 第十四條ニ定メタル店舗ノ届出ヲ怠リタルキ

營業規則

第四 第三十五條ニ從ヒ營業ノ許可ヲ受ケスシテ之ヲ始ムルカ
又ハ同條ニ定メタル届出ヲ怠タルハ

第五 第四十三條ニ違背シタルハ

第六 旅行シテ物件ノ注文ヲ求ムルニ第四十四條ノ規則ニ背キ
タルハ(見本ノ品物ニ非サル物又ハ差向地ニ送ル物ニ非サ
ル物ヲ携帯スル類)

第七 鑑札ヲ受ケスシテ行商ヲ爲スハ

第八 營業ヲ爲スニ官署ヨリ定メタルカ又ハ官署ヨリ許可シタ
ル物價表ヲ越エタルハ

第九 丁稚ニ對シ法律上ノ義務ヲ破リタル者(千八百七十八年
七月十七日改正)

第十 故サラニ第三百三十一條ニ背キテ丁稚ヲ使用スル者

都テ此場合ニ於テ其所爲カ同時ニ租稅規則ニ背クハ此規則ニ因
テ其罰ヲ科セス(租稅規則ニ因テ罰スルコトナリ)

第四百十九條 左ニ掲クル所爲アル者ハ三十「マルク」以下ノ罰金ヲ
科スヘシ無力ナルハ八日以内ノ拘留ニ處スヘシ

第一 營業ヲ爲スニ第四十四條ニ從テ鑑札ヲ所持スヘキニ之ヲ
受ケサルカ又ハ之ヲ所持セサルハ

第二 行商ノ營業者カ鑑札ヲ所持セサルカ又ハ之ヲ他人ニ貸與
スルハ

第三 鑑札ニ地方ヲ定メ交付シタルニ地方外ニ出テ、行商ヲ爲
スハ(第六十條)

營業規則

第四 第六十一條ノ規則ニ背キタル者

第五 行商タル者權利ナクシテ手傳人ヲ伴行スル者又ハ權利ナクシテ手傳人ト爲リタル者(第六十二條)

第六 市場ニ關スル警察官ノ命令ニ背ク者

第七 第三百三十八條及ヒ第三百三十九條(四)ノ義務ヲ盡スコヲ怠ル者

第百五十條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ法律ニ背ク毎ニ二十「マルク」以内ノ罰金ヲ科シ無力ナル者ハ三日以内ノ拘留ニ處スヘシ(千八百七十八年七月十七日改正)

一 第百六條ヨリ第百十二條マテニ背キテ職人ヲ抱入ル、カ又ハ留置ク者

二 此規則ノ履歷書及ヒ履歷端紙ノ箇條ニ背ク者

三 故サヲニ自己ノ氏名ヲ掲ケタル履歷書ヲ破壊スル者

第百五十一條 代理人ヲ以テ營業ヲ爲スキ警察上ノ規則ヲ犯シタル

者ハ代理人ヲ罰スヘシ然レモ財産管理ノ權利ヲ有スル者(未丁年ニ非サル者ノ類)ニシテ其代理人ノ所犯ノ情ヲ知リタル者ハ同ク之ヲ罰スヘシ

其所犯カ鑑札ヲ取上クルカ又ハ許可ヲ取上クヘキ者ハ代理人ノ犯シタル罪ト雖モ財産管理ノ權利ヲ有スル者ノ其情ヲ知リタル者ハ之ヲ取上クヘシ若シ其情ヲ知ラサル者ハ直ニ其代理人ヲ放逐スヘシ

第百五十二條 營業者又ハ手傳人又ハ製造職人等ノ賃錢ヲ増減シ其

他景況ヲ變スルカ爲メ特ニ職人ヨリ職業ヲ中止シ又ハ營業者ヨリ職人ヲ放逐スルノ約定ヲ結ビ又ハ其集會ヲ爲スコトヲ罰スル規則ハ之ヲ廢止スヘシ(集會ハ集會條例ニヨル)

關係者ハ其約定又ハ集會ヨリ何時ニテモ之ヲ辭退スルコトヲ得其者ニ對シ訴訟又ハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

第二百五十三條 暴行脅迫又ハ面目ヲ汗スヘキ所爲ヲ以テ前條ノ約定

ニ他人ヲ加入セシメ若クハ其約定ヨリ離サシメントスル者ハ三月

以下ノ禁獄ニ處スヘシ但刑法ニ於テ之ヨリ重キ刑ニ處スヘキハ

本條ノ罰ヲ科セス

附錄

第二百五十四條 第二百五條ヨリ第三十三條マテノ規則ハ劑藥ノ業及

ヒ商業ノ「ゲゼルレ」ゲヒユルヘ「丁稚」ニハ適用ス可カラス

第三十四條ヨリ第三十九條(ハ)マテノ規則ハ通常蒸氣力ヲ用

ヒル勞力場並ニ分析所建築用材木下造場造船場ノ營業者及ヒ職人

ニモ亦適用スヘシ

亦第一百五條ヨリ第十九條マテ及ヒ第三百三十五條ヨリ第三十

九條(ロ)マテノ規則ハ礦坑鹽坑金銀淘汰所石坑ノ所有者及ヒ職人

ニモ亦適用スヘシ

婦女ノ職人ハ前項ノ製造場ニ於テ坑穴中ニハ使用スヘカラス若シ

之ニ背クハ第四百十六條ノ罰ヲ科スヘシ

第一百五十五條 此規則ニ於テ連邦中ノ法律トハ憲法ニ從テ發シタル

命令ヲモ包括スヘシ

各連邦ニ於テ上等行政官、下等行政官、村官、地方官、下等官吏、警察官、地方警察官トハ何タル者ヲ言フカハ各連邦ノ政府ヨリ之ヲ定メ布告スヘシ

第一百五十六條 此規則ノ第一篇第二篇及ヒ第四篇ヨリ第十篇マテハ此規則ヲ公布シタル後三月ヲ經テ其効力ヲ有スヘシ第三篇ハ千八百七十年一月一日ヨリ其効力ヲ有スヘシ
千八百六十八年七月八日ノ坐商營業規則ハ此規則ヲ公布シタル日ヨリ三月ヲ經テ之ヲ廢止スヘシ

專賣免許規則 千八百七十七年
五月二十五日發

第一章 專賣權

第一條 專賣權ハ營業上ノ利益ト爲ル可キ新發明物ニ授與ス可シ

左ニ掲クル發明物ニハ免許ヲ授與セス

- 一 法律又ハ風俗ニ戾ルヲ以テ免許ス可カラサル發明物
- 二 飲食物、藥劑、舍密製物ノ發明但一定ノ方法ヲ以テ製作セサル

トニ限ル可シ

第二條 此規則ニ因リ願出ルト已ニ印刷物ニ明記シタルカ又ハ國內ニ於テハ一般使用スルヲ以テ何人ニテ之ヲ製作シ得ル物ハ新發明物ト看做ス可カラス

第三條 專賣ノ免許ヲ得ル權ハ此規則ニ因リ最初願出タル者ニ在ル

專賣免許規則

可シ

然レ其願出タル事件他人ノ仕法書圖面雛形器具ニ類似スルカ又ハ許可ヲ受ケスシテ他人ノ方法ヲ使用スルカ爲メ他人ヨリ故障ヲ申立タルハ免許ヲ求ムル權ナシトス

第四條 專賣免許ノ効力ハ發明者ノ許可ヲ受ケスシテ何人タリトモ其發明物ヲ製作販賣公布ス可カラサルニ在リトス
其發明物ノ方法ナルカ又ハ器械器具ナルハ以上ノ外ニ發明者ノ許可ヲ受ケスシテ其方法又ハ器械器具ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 專賣免許ノ効力ハ之ヲ願出ルルハ已ニ國內ニ於テ使用スルカ又ハ其準備ヲ爲シタル者ニ對シテハ之レナシトス
又宰相ノ命ニ因リ陸海軍又ハ其他ノ公益ニ供ス可キモ亦其効ナ

シトス然レ此場合ニ於テハ獨逸國又ハ專賣權ヲ制限センコトヲ申立タル連邦ニ對シ發明者ヨリ相當ノ償ヲ求ムルコトヲ得雙方ニ於テ協議整ハサレハ裁判ヲ以テ其賠償高ヲ定ム可シ

臨時國內ニ於テ使用スル船舶ノ器械ニハ專賣免許ノ効力ヲ及ホス
コトナシ

第六條 專賣免許ヲ得ル權及ヒ免許權ハ發明人ノ相續人ニ轉移ス可シ其權ノ全部又ハ一部ハ契約又ハ遺言書ヲ以テ之ヲ他人ニ讓與スルコトヲ得

第七條 專賣免許ノ期限ハ十五年ナリトス其期日ハ免許ヲ願出タル翌日ヨリ起算ス已ニ免許ヲ得タル物ヲ改良スル發明ヲ爲シタルハ別ニ増補免許ヲ願出ルコトヲ得増補免許ハ最初ノ免許期限内ニ限

專賣免許規則

ル可シ

第八條 專賣免許一通ニ付キ三十「マルク」ノ手数料ヲ納ム可シ

其他増補免許ヲ除キ(第七條)免許期限中翌年ノ始メヨリ毎年更ニ
手数料ヲ納ム可シ翌年ハ五十「マルク」其次年ヨリ毎年五十「マルク」
ツ、ヲ増加ス可シ

貧窮ナルコトヲ證明シタル發明者ニハ初年翌年ノ手数料ヲ二年マテ
延期スルコトヲ得三年ニ至テ免許ノ消滅スルルルハ其手数料ヲ免スル
コトヲ得

第九條 免許ハ發明者ニ於テ其權ヲ放棄スルカ又ハ手数料完納期日
後三月以内ニ之ヲ納メサレハ消滅ス可シ

第十條 左ノ場合ニ於テハ免許ヲ無効トス可シ

一 第一條第二條ニ因リ免許ス可カラサルコトノ明カナル發明物ナ
ルルル

二 願出タル事件他人ノ仕法書圖面雛形器具ニ類似スルカ又ハ許
可ヲ得スシテ他人ノ方法ヲ使用シタルコトノ明カナルルル

第十一條 左ノ場合ニ於テハ三年ヲ經タル後免許ヲ取上クルコトヲ得

一 發明者ニ於テ多ク國內ニ發明物ヲ廣メサルカ又ハ相當ノ準備
ヲ爲サ、ルルル

二 公益ノ爲メ他人ニ發明物ヲ使用セシメル許可ヲ與フ可キルル但
相當ノ償金又ハ保證ヲ爲スモ仍ホ發明者ニ於テ其許可ヲ肯ンセ
サルルルモ亦然リ

第十二條 國內ニ住居セサル者ハ國內ニ代理人ヲ置クニ非サレハ免

專賣免許規則

許ヲ請求シ且其權ヲ實用スルコトヲ得ス代理人ハ此規則ニ掲ケタル手續及ヒ免許ニ係ル裁判ニ於テ本人ノ代理ヲ爲スコトヲ得發明者ニ對スル訴訟ノ管轄裁判所ハ其代理人ノ住居地ヲ管轄スル裁判所ナリトス又住居地ナキハ專賣免許局所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ナリトス

第二章 專賣免許局

第十三條 專賣免許及ヒ免許ノ無效及ヒ之ヲ取上クルコトハ專賣免許局ニ於テ爲ス可シ

專賣免許局ハ伯林ニ所在地ヲ定ム可シ免許局ハ局長ヲ合シ常在免許官三人以上不常在免許官數名ヨリ成ル免許官ハ皇帝ヨリ其他ノ官吏ハ宰相ヨリ之ヲ任ス可シ常在官ハ連邦委員局ノ申立ニ因リ獨

逸又ハ連邦ノ官吏ナレハ本務ノ期限ヲ以テ其他ハ終身之ヲ命ス可シ不常在官ハ五年ノ期限ヲ以テ之ヲ任ス可シ常在官ノ内三名以上ハ裁判官又ハ上等行政官タル性質ヲ有ス可シ不常在官ハ技術中ノ一科ニ熟達ス可シ但不常在官ニハ千八百七十三年三月十一日ノ獨逸官吏權利義務規則第十六條ヲ適用ス可カラズ

第十四條 專賣免許局ハ之ヲ數部ニ分ツ可シ豫シメ一年以上ノ期限ヲ以テ之ヲ定ム可シ一人ニシテ數部ヲ兼ヌルモ妨ケナシ
部ニ於テ免許ノ決議ヲ爲スニハ專賣免許官三名以上其席ニ加ハル可シ其内二名ハ不常在官タル可シ

免許ヲ無效トシ又ハ免許ヲ取上クル事件ヲ裁定スル爲メ別ニ部ヲ設ク可シ其裁定ニハ長ヲ合シ裁判官又ハ上等行政官タル性質ヲ有

スル免許官二名其他ノ免許官三名其席ニ加ル可シ其他ノ決議ヲ爲スニハ三名ヲ以テ足レリトス

訴訟法ニ於テ裁判官ノ忌避又ハ回避ヲ定メタル者ハ本條ニモ亦適用ス可シ

免許官外ノ鑑定人ヲ決議ニ加ハラシムルコトヲ得レモ投票ノ數ニ加ハラシム可カラス

第十五條 各部ノ決議及ヒ裁定ハ專賣免許局ノ名義ヲ以テ爲ス可シ之ヲ書面ニ作り理由ヲ記シ關係者ニ送付ス可シ

期限ニ係ル送達ハ郵便局ヨリ受領書ヲ取り書留郵便ヲ以テ送達ス可シ内國ニ於テ送達スルコト能ハサルモハ其送達ヲ擔當スル免許局

ノ官吏ヨリ訴訟法第六十一條第七十五條ノ規則ニ因リ郵便局

ニ囑托ス可シ

免許局ノ決議ニ對シテハ故障ヲ申立ルコトヲ得

第十六條 一部ノ決議ニ對シ故障ヲ申立タルモ他ノ部又ハ連合部會議ニテ其故障ヲ裁定ス可シ

故障ノ裁定ニハ最初決議ニ加ハリタル者ヲ與カラシムル可カラス

第十七條 數部ニ分ツコト其部ノ事務手續ノ方法免許局ノ事務ノ此規則ニ定メナキモノハ連邦委員局ノ承諾ヲ得皇帝ノ布告ヲ以テ定ム

可シ(千八百七十七年六月十八日ニ布告ヲ發シタリ)

第十八條 專賣免許局ハ裁判所ノ囑托ニ因リ免許事件ニ付キ意見ヲ述フ可シ然レモ宰相ノ許可ヲ受クルニ非サレハ管轄事件外ノ決議ヲ爲シ又ハ意見ヲ述フルコトヲ得ス

第十九條 專賣免許局ニハ簿冊ヲ備ヘ免許シタル事件及ヒ其期限發明者ノ氏名住所又願出ノ代理人ヲ命シタレハ其代理人ヲ記ス可シ又免許期限ノ始終消滅無效取上ケタルヲ簿冊ニ附記シ獨逸官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

發明人又ハ其代理人ニ變更アリ之ヲ免許局ニ證明シタルハ之ヲ簿冊ニ附記シ官報ヲ以テ公告スヘシ未タ公告セサル間ハ最初ノ發明人及ヒ其代理人ニ於テ此規則ノ權利義務ヲ有スルモノトス簿冊及ヒ免許願ノ時差出シタル仕方書圖面雛形見本ハ衆人ノ檢閱ニ供スヘシ但陸海軍ノ爲メ獨逸政府ノ名義ヲ以テ得タル免許ハ此限ニ在ラス

免許局ハ衆人ノ檢閱ニ供スヘキ仕方書圖面ノ要領ヲ公告スヘシ又

其公告ニハ宰相ヨリ此規則ニ因テ公告スヘキ事件ヲ掲載スヘシ

第三章 免許手續

第二十條 免許願ハ書面ヲ以テ專賣免許局ニ差出スヘシ發明物一箇毎ニ願ヲ出スヘシ願書ニハ許可ヲ得ヘキコト及ヒ其物件ヲ明細ニ記スヘシ又別ニ仕法書ヲ添ヘ他ノ鑑定人ニ於テ其物件ノ使用ヲ判定シ易カラシムヘシ其他相當ノ圖面雛形見本ヲ添フヘシ

免許局ハ又別ニ願書ノ要件ヲ定ムルコトヲ得

其願ヲ公告スルマテハ其箇條ヲ變更スルコトヲ得願出ルニハ二十「マ」ルク「」ノ手續費用ヲ納ムヘシ

第二十一條 願書ノ十分ナラサルハ專賣免許局ヨリ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ期限内ニ改正セサルハ其願書ヲ却下スヘシ

專賣免許規則

第二十二條 專賣免許局ニ於テ願書ヲ十分ナリトシ且免許ヲ爲スヘシト認メタルキハ其願ヲ公告スヘシ公告シタルキハ發明人ノ爲メ願出タル物件ニ付假リニ此規則ニ掲ケタル免許ノ効力(第四條第五條)ヲ有スヘシ

免許局ニ於テ第一條第二條ニ因リ免許スヘカラスト認メタルキハ其願書ヲ却下スヘシ

第二十三條 免許ノ公告ニハ發明人ノ氏名願書ノ要領ヲ記シ一度獨逸官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ又同時ニ願書ニ一切ノ附録ヲ添ヘ免許局ニ於テ衆人ノ檢閲ニ供スヘシ公告ノキハ願出タル物件ノ專賣權ヲ假リニ保護スヘキヲ公告スヘシ

陸海軍ノ爲メ獨逸政府ノ名義ヲ以テ願出タルキハ其願書及ヒ附録

ヲ衆人ノ檢閲ニ供スヘカラス

第二十四條 公告ヲ爲シタル日ヨリ(第二十三條)八週ヲ經ルニ非サレハ免許局ニ於テ免許ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス其期限内ニ於テ免許ニ付キ免許局ニ故障ヲ申述フルコトヲ得其故障ハ書面ヲ以テ爲シ且理由ヲ付スヘシ又故障ハ止タ新發明ニ非サルカ又ハ第三條ノ第二項ノ事由アルキニ限リ之ヲ述フルコトヲ得免許局ニ於テ免許ノ決議ヲ爲ス前ニ關係者ヲ呼出シテ之ヲ訊問シ又其技術ニ熟達スル者ヲシテ意見ヲ述ヘシメ其他必用ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 願書ヲ却下スル決議ニ對シテハ發明人ヨリ又免許ノ決議ニ對シテハ發明人又ハ故障人ヨリ決議ヲ送達シタルヨリ四週間内ニ故障ヲ述フルコトヲ得故障ヲ爲スニハ二十「マルク」ノ故障手續

費用ヲ納ムヘシ之ヲ納メサルモハ故障ヲ爲サ、ルモノト看做スヘシ」
故障ノ手續ハ第二十四條第二項ニ從フ可シ

第二十六條 免許ニ付キ終審ノ裁定ヲ爲シタルモハ免許局ヨリ獨逸
官報ヲ以テ公告シ發明人ニ免許狀ヲ交付ス可シ

免許ヲ爲サ、ルモ亦之ヲ公告ス可シ且假リニ專賣權ヲ保護シタ
ルコトナキ者ト看做ス可シ

第二十七條 免許ノ無效又ハ取上ノ手續ハ申立ヲ待テ之ヲ始ム可シ

第十條第二ノ場合ニ於テハ被害者ニ非サレハ其申立ヲ爲スコトヲ得
ス申立ハ書面ヲ以テ免許局ニ爲シ其事由ヲ掲ク可シ

第二十八條 其手續ヲ始ム可シト決シタルモハ免許局ヨリ發明人ニ
申立ヲ通知シテ四週間内ニ答辨ヲ爲サシム可シ

其期限内ニ答辨ヲ爲サ、ルモハ關係人ヲ呼出シ訊問シタル上直チ
ニ申立ニ從ヒ裁定シ且申立人ヨリ申述ヘタル事由明白ナルモノト
看做スコトヲ得

第二十九條 期限内ニ發明人ヨリ故障ヲ申述フルカ又ハ第二十八條
ノ第二項ノ場合ニ於テ直ニ申立ニ從テ裁定セサルモハ免許官ヨリ
前ノ場合ニ於テハ申立人ニ故障ヲ通知シ其事件ヲ明白ナラシムル
ニ必用ナル命令ヲ發シ又證人鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得是等ノ者ニ
ハ訴訟法ヲ適用ス可シ證據取調ニハ必ス誓約ヲ爲シタル書記ヲシ
テ其調書ヲ作ラシム可シ

裁定ハ必ス關係者ヲ呼出シ之ヲ訊問シタル上爲ス可シ

第十一條第二ノ理由ニ因リ免許ヲ取上ントヲ申立タルモハ其申立

ニ從テ裁定ヲ爲ス前ニ之ヲ取上クル事由ト相當ノ期限ヲ定メ發明人ニ其願ヲ下戻ス可キヲ申渡ス可シ

第三十條 裁定中ニハ(第二十八條第二十九條)免許局ノ意見ニ因リ手續費用ヲ擔當ス可キモノヲ定ム可シ

第三十一條 裁判所ハ免許局ノ囑托ニ應シテ補助ヲ爲ス可シ又囑托ニ因リ裁判所ハ出庭セサルカ又ハ陳述宣誓ヲ肯ンセサル證人鑑定人ニ罰金ヲ科シ又出庭セサル證人ヲ引致ス可シ

第三十二條 免許局ノ裁定(第二十八條第二十九條)ニ對シテハ控訴ヲ爲スコヲ得控訴ハ獨逸上等商法裁判所ニ爲ス可シ且裁定書ヲ送達シタル後六週間内ニ免許局ニ書面ヲ以テ之ヲ爲シ理由書ヲ添フ可シ

裁判所ノ判決ニハ第三十條ニ因リ手續費用ヲ掲ク可シ

其他裁判所ニ於テ手續規則ヲ作り連邦委員局ノ承諾ヲ得タル上皇帝ヨリ之ヲ布告ス可シ

第三十三條 免許局ノ職務上言語ニ付テハ裁判編制法ニ從フ可シ外國語ヲ以テ作りタル書面ハ之ヲ參考ニ供セス

第四章 罰則及ヒ損害賠償

第三十四條 故サラニ第四條第五條ノ規則ニ背キ發明物ヲ使用シタル者ハ五千「マルク」以下ノ罰金又ハ一年以下ノ禁獄ニ處ス可シ且被害者ニ對シ損害ノ賠償ヲ擔當ス可シ

告訴ヲ待テ罰ス可シ

第三十五條 刑事裁判所ニ於テ其刑ニ處セラレタルハ犯人ノ費用

ヲ以テ裁判判決ヲ公告ス可キ權ヲ被害者ニ與フ可シ公告ノ方法及ヒ期限ハ判決中ニ掲ク可シ

第三十六條 被害者ノ求メニ因リ此規則ニ背キタルヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメスシテ罰ノ外ニ一萬「マルク」以下ノ過怠金ヲ出サシメ之ヲ本人ニ給スルコトヲ得過怠金ニ於ケル犯人ノ責任ハ家資分散ニ至ル可シ(身代限ヲ以テ取立ルコナリ)

過怠金ヲ出サシメタルハ更ニ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第三十七條 千八百六十九年六月十二日ノ上等商法裁判所設立規則第十二條ニ於テ其裁判所ノ權限ヲ定メタルモノハ此規則ヨリ生シタル訴訟ニモ亦之ヲ適用ス可シ

第三十八條 專賣權ヲ濫用シタルヨリ生スル訴ハ三年ヲ經テ期滿免

除ト爲ル可シ

第三十九條 損害ノ賠償ヲ爲ス可キヤ又如何ナル賠償高ヲ出ス可キヤ否ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第四十條 左ニ掲クル者ハ百五十「マルク」以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス可シ

- 一 此規則ニ因リ保護ヲ受ケタル物件ニ類似スル標記ヲ物件又ハ其箱ニ貼付シテ他人ヲ惑ハシメタル者
- 二 此規則ニ因リ保護ヲ受ケタル物件ニ類似スル標記ヲ公告紙又ハ定價表看板等ニ誌シ他人ヲ惑ハシメタル者

第五章 末則

第四十一條 當時連邦ノ規則ニ因テ得タル專賣權ハ此規則ニ因リ其

專賣免許規則

期限ヲ終ルマテ効力ヲ有ス可シ但其期限ヲ延期スルコトヲ得ス

第四十二條 舊來ノ免許狀所持人ハ(第四十一條)此規則ニ因リ更ニ

免許ヲ願出ルコトヲ得其發明物ノ檢査ハ此規則ニ因テ爲ス可シ免許

ノ決議ヲ爲ス前ニ同一ノ物件ニ付キ他ノ免許狀所持人(第四十一

條)ヨリ更ニ免許ヲ願出ルカ又ハ其免許ニ對シテ故障ヲ申述ヘタ

ルルハ免許ス可カラズ新發明物ニ非サル免許ハ先キニ免許ヲ得タ

ルル第二條ニ因リ新發明物ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ

此規則ニ因リ免許ヲ爲シタルルハ發明人ノ所持スル舊來ノ免許狀

(第四十一條)ハ其効力ヲ失フ可シ他人ニ於テ舊來ノ免許狀ヲ所持

スルルハ其効力ヲ有スル地方ニ於テハ其期限ノ經過シタル後ニ至

テ始メテ新免許狀ノ効力ヲ有ス可シ

第四十三條 第四十二條ニ因リ交付ス可キ免許狀ノ期限ニハ舊來ノ

期限ヲ算入ス可シ免許狀所持人ハ其餘リタル期限ニ付キ手数料ヲ

(第八條)納ムヘシト雖モ其完納期日及ヒ年々ノ金額ハ先キニ免許

ヲ得タル期日ニ因テ之ヲ定ム可シ

第四十四條 第四十二條ニ因リ免許ヲ爲シタルモ其願ヲ出スル他人

已ニ專賣權ヲ害セスシテ發明物ヲ使用シタルカ又ハ其準備ヲ爲シ

タル者ハ之レニ因テ制限スルモノニ非ス

第四十五條 此規則ハ千八百七十七年七月一日ヨリ効力ヲ有ス可シ

專賣免許局ノ設立免許手續及ヒ事務規則 千八百七十七年
六月十八日發

第一條 專賣免許局ハ七部ヨリ成ル

專賣免許規則

各部ノ權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一部二部ハ器械術ニ係ル免許願ニ付キ決定ヲ爲ス

三部四部ハ舍密術ニ係ル免許願ニ付キ決定ヲ爲ス

五部六部ハ同時ニ舍密術器械術ニ係ル免許願及ヒ其他ノ免許願ニ

付キ決定ヲ爲ス

七部ハ免許ノ無効ヲ言渡シ免許ヲ取上ケルコトニ付キ裁定ヲ爲ス

第二條 免許ニ係ル一部ノ決定ニ對シ故障ヲ述ヘタルハ第一條ニ

因リ同技術ノ他ノ部ニ於テ之ヲ裁定スヘシ但局長ハ其都度別ニ一

部又ハ數部ヲシテ其裁定ニ加ハラシムルコトヲ得

無効ト言渡又ハ免許取上ニ對スル故障ハ第一條ニ因リ故障ヲ受ケ

タル技術ヲ管理スル兩部ニ於テ裁定スヘシ

第三條 各部ニ事務ヲ配當スル細則ハ局長ヨリ發スヘシ免許無効取

上ニ係ラサル願書ニ付テハ其都度其管理ヲ定ムルコトヲ得

第四條 各部ノ會議ニハ其部所屬ノ免許官ニ非サレハ加ハルコトヲ得

ス

一部二部ニハ各五名以上三部四部ニハ各三名以上五部六部ニハ各

四名以上七部ニハ六名以上ノ不定員ヲ設クヘシ

五部六部ノ不定員ニハ一二三四部ヨリ各一名以上七部ノ不定員ニ

ハ一部ヨリ六部マテノ部ヨリ各一名以上ヲ撰ムヘシ

各部ニハ一名以上ノ定在委員ヲ設ケ七部ニハ仍ホ局長ヲ定在員ト

爲スヘシ

第五條 各部ハ局長ヨリ一年以上ノ期限ト部委員トヲ定メテ之ヲ作

專賣免許規則

ルヘシ

二百三十

期限ヲ經過シタルハ更ニ一年以上ノ期限ヲ定メテ各部ヲ編制スヘシ但前年ノ編制ヲ變セサルモ妨ケナシ

死去疾病不在ニヨリ別ニ免許官ヲ要スル部ニ於テハ其部長ヨリ他ノ部員ヲシテ補助セシムルコトヲ得

第六條 各部ノ事務ハ局長ヨリ命シタル者ニテ之ヲ監督スヘシ七部

ニ於テハ局長自カラ監督スヘシ一ヨリ六ニ至ル部ノ決議ニ對スル故障ハ局長ニテ之ヲ監督シ七部ノ故障ヲ監督スヘキモノハ第五條ノ期限ヲ以テ預シメ局長ヨリ之ヲ定ムヘシ

各部會長ノ代理及ヒ事務監督ノ代理ハ局長ヨリ之ヲ定ムヘシ

第七條 各部ニ於テ其事務ヲ監督スル者ハ裁定ニ係ラサル命令ヲ發

シテ其事務ヲ取扱フヘシ特ニ各事件ニ付キ專任者ヲ命シ時トシテハ輔佐人ト共ニ之ヲ調査セシムヘシ專任者ハ會議ノ席ニ於テ調査事件ヲ朗讀シ且關係者ニ送付スヘキ裁定書ヲ作ルヘシ事務監督者ハ必用ト認メタレハ其文体ヲ變更スルコトヲ得

鑑定人ヲ立會ハシムヘキヤ否ハ(專賣免許規則第十四條五項)各部ニ於テ之ヲ決スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於ケル各部ノ決議ハ會議席ニ於テ調査シタル事件ヲ朗讀セシメテ之ヲ爲スヘシ

一 專賣免許規則第二十五條ノ決議ヲ爲ス時

二 同規則第二十九條第三項ノ場合ニ於テ免許狀ヲ願下ケシムル時

專賣免許規則

二百三十一

三 免許ノ無効ヲ言渡シ又ハ之ヲ取上クルルキ

第九條 各部ノ裁定ハ多數ニ因ルヘシ可否同數ナルルキハ事務監督者ノ投票ニ從フヘシ裁定前ニ關係者ヲ訊問シタルルキ(專賣免許規則第二十四條二項第二十五條二項第二十九條二項)其時立會ハサル者ヲ投票ニ加ハラシムヘカラス

第十條 局長ハ事務ヲ總理シ同一ノ裁定ヲ爲サシムヘシ故ニ各部ノ會議ニ臨ミ又全員會ヲ開キ一定ノ問題ヲ會議セシムルヲ得

第十一條 各部ノ會議ハ一定ノ時日ニ開クヘシ其時日ハ局長ヨリ之ヲ定ムヘシ

第十二條 證人鑑定人ハ住居地ノ法律ニ因リ旅費日當ヲ受ケ鑑定人ハ仍ホ相當ノ手當ヲ受クヘシ

第十三條 專賣免許規則第三十條ニ因リ免許局ニテ定ムヘキ費用ニハ其局立替金ノ外ニ其意見ニ因リ關係人ノ權利ヲ保護スルニ必用ナル費用ヲ含蓄ス

第十四條 庶務掛出納掛書籍掛博覽掛ヲ設クルハ局長ノ權ナリトス又局長ハ屬官ニ對シ事務規則ヲ發スヘシ

第十五條 事務ノ總括ハ局長ニテ之ヲ爲シ局長ハ屬官ノ長ニシテ屬官ニ對スル一切ノ命令ヲ發スヘシ

第十六條 職務時間ニ受領シタル事件ハ直チニ其他ノ事件ハ翌日ニ其順序ニ因リ又其順序ナキルハ屬官ノ受領シタル順序ニ因リ番號月日ヲ記スヘシ

第十七條 免許願書又其願ニ付キ差出シタル書類ハ直ニ管轄部ニ送

付スヘシ其管轄明カナラサルモノハ局長ノ命令ニ從フヘシ其他ノ書類ハ都テ局長ニ差出スヘシ

第十八條 免許局ハ他人ノ求ニ因リ法律ニ於テ衆人ノ檢閲ヲ禁セサル書類ノ抜抄ヲ其意見ヲ以テ費用ヲ取立テ之ヲ給スルコトヲ得

第十九條 各部ノ決議書ニハ帝國免許局某部ト記スヘシ然レモ部ニ於ケル故障ノ裁定書(第二條)及ヒ免許局ノ裁定書ニハ止テ帝國免許局ト記スヘシ其書類ニハ事務ヲ監督スル者署名スヘシ呼出狀送達書免許狀ハ監督者手署セサルモ公證スルヲ以テ足レリトス其公證ハ局長ヨリ命シタル屬官ノ手署ト局印ヲ有スヘシ

第二十條 免許局ノ官印ハ中央ニ鷲ヲ彫リ其周圍ニ帝國免許局ト刻スヘシ

商標保護規則 千八百七十四年十一月三十日發

第一條 店號ヲ商人簿冊ニ登記シタル營業者ニ於テ他人ノ商品ト區別センカ爲メ商品又ハ其上蔽ニ標記ヲ用ントスル者ハ其本店所在地ノ管轄裁判所ニ届出テ之ヲ商人簿冊ニ登記セシムルコトヲ得

第二條 其届出書ニハ商標(第一條)ノ明細書及ヒ之ヲ用フル商品目錄ニ店號ヲ記シテ之ヲ副フヘシ

第三條 連邦ノ法律ニ於テ已ニ防護シタル商標及ヒ千八百七十五年ノ初メニ至ルマテ一般ニ一定ノ營業者ノ商品ニ貼用シタル商標ハ其登記ヲ拒ムヘカラス

然レモ止テ數字(イロハ)又ハ文字ヨリ成ル商標ナルカ又ハ公ノ紋風俗ヲ害スル圖ヲ商標トシタルモハ其登記ヲ拒ムヘシ

第四條 商標ノ登記ハ届出人ノ店號ヲ以テ爲シ且其届出ノ事實ヲ記
スヘシ本店ヲ轉シタルカ爲メ更ニ登記ヲ爲スヘキハ最初届出タ
ル事實ヲ附記スヘシ

第五條 店號所持人ノ申立ニヨリ登記シタル商標ハ塗抹スヘシ

左ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ塗抹スヘシ

- 一 商人簿冊ノ店號ヲ塗抹シタルハ
- 二 店號ヲ變更シテ商標ノ繼續ヲ届出サルキ
- 三 商標ヲ登記シタル後更ニ其繼續ヲ届出サルカ又ハ其届出ヲ
爲シタル後更ニ繼續ヲ届出スシテ已ニ十年ヲ經過シタルハ

四 第三條ニ因リ登記スヘカラサル商標ナルハ

第六條 最初ノ登記及ヒ商標ノ塗抹ハ獨逸官報ヲ以テ公告スヘシ

登記ノ公告費用ハ店號所持人ニテ之ヲ擔當スヘシ

第七條 已ニ連邦ノ法律ヲ以テ保護セサル商標ノ最初ノ登記ニ付テ
ハ五十「マルツ」ノ手續料ヲ納ムヘシ

千八百七十五年ノ始メニ至ルマテ一般ニ一定ノ營業者ノ商品ニ貼
用シタル商標ノ手数料ハ連邦政府ヨリ之ヲ免スルコトヲ得

其他ノ登記及ヒ塗抹ハ手数料ヲ納ムルニ及ハス

第八條 商品又ハ其上蔽ニ登記シタル商標ヲ使用シ又ハ其商品ヲ販
賣スル權ハ獨り最初届出タル店號所有人ニテ有スヘシ

第九條 連邦ノ保護ヲ受ケタル商標及ヒ千八百七十五年ノ始メニ至
ルマテ一般ニ一定ノ營業者ノ商品ニ貼付シタル商標ニ付テハ其權
利者ニ非サレハ千八百七十五年十月一日以前ハ保護權ヲ得ルコト能

ハス

第十條 「イロハ」又ハ文字ノ商標ヲ届出タルトモ他人ニ於テ之ヲ其氏名店號ノ略字ニ用フルモ妨ケナシ

舊來一般又ハ營業ノ種類ヲ限り使用シタル商標又ハ登記ヲ許ス可カラサル者ニ付テ何人タリトモ届出テ、權ヲ得ルコトヲ得ス

第十一條 商標ヲ登記シタル店號所持人ハ其商標ヲ專有スル權利者ノ求メニ因リ又第十條第二項ノ商標ナルルルハ關係者ノ求メニ因リ之ヲ塗抹セシムヘシ

第十二條 商標ヲ届出タルニ因リ得タル權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅スヘシ

一 本人ヨリ届出ヲ願下ケタルルル又店號所持人ヨリ塗抹ヲ願出タ

ルル

二 第五條一ヨリ三マテニ掲ケタル場合ノ生シタルルル

第十三條 内國ノ製造人又ハ商人ハ此規則ニ因テ防護ヲ受ケタル商標又ハ氏名店號ヲ濫用スル者ニ對シ其使用ヲ禁セン訴ヲ爲スコトヲ得

又製造人商人ハ其商標ヲ濫用シタル商品ヲ販賣スル者ニ對シ其販賣公布ヲ禁セン訴ヲ爲スコトヲ得

第十四條 故サラニ此規則ニ因テ防護ヲ受ケタル商標ヲ商品又ハ其上蔽ニ貼付スルカ又ハ内國製造人ノ氏名店號ヲ濫用スル者又ハ商標ヲ濫用シタル商品ヲ販賣公布シタル者ハ百五十「マルク」以上三千「マルク」以下ノ罰金又ハ六月以下ノ禁獄ニ處シ被害者ニ對シ損

商標保護規則

害ノ賠償ヲ爲スヘシ

本人ノ告訴ヲ待テ其裁判ヲ爲スヘシ

第十五條 被害者ノ求メニ因リ損害ノ賠償ヲ爲サシメスシテ五千「マルク」以下ノ過怠金ヲ出サシメ之ヲ本人ニ給スルコトヲ得過怠金ノ責任ハ家資分散ニ至ルヘシ

過怠金ヲ出サシメタルハ更ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十六條 損害ヲ生セシメタルヤ又如何ナル賠償ヲ爲サシムヘキヤ否ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十七條 第十四條ニ因リ其刑ニ處シタルハ被害者ノ求メニ因リ犯人現有ノ商標ヲ毀棄シ又ハ商標ノミヲ毀棄スルコト能ハサレハ其商品上蔽ヲ毀棄スヘキコトヲ言渡スヘシ

刑事裁判ニ於テ其刑ニ處シタルハ犯人ノ費用ヲ以テ公告スヘキ權ヲ被害者ニ與フヘシ其公告ノ方法及ヒ期限ハ判決書ニ之ヲ掲クヘシ

第十八條 此規則ニ於ケル商標氏名店號ヲ保護スル處分ハ他人之ヲ變更シ專ハラ注意セサレハ區別スルコト能ハサルハト雖モ亦免カル、コトヲ得ス

第十九條 此規則ニ因テ生シタル爭訟ハ獨逸及ヒ連邦ノ法律ニ於テ商事ト看做スヘシ

第二十條 内國ニ本店ヲ有セサル營業者ノ商標及ヒ外國ノ製造人商人ノ氏名店號ニハ獨逸法律全書ノ布達ニ因リ本店所在ノ政府ニ於テ獨逸ノ商標氏名店號ヲ保護スルニ非サレハ此規則ヲ適用スヘカ

ラス但商標ハ(第一條)左ノ條件ニ適スヘシ

- 一 商標ハ「ライプチヒ」ニ在ル商事裁判所ニ届出且此規則ニ因テ生シタル争訟ニ付キ其裁判所ノ管轄ニ屬スヘキコトヲ申出ツヘシ
- 二 届出ヲ爲スルハ本國ニ於テ商標ノ保護ヲ受クヘキ條件ニ適シタルコトヲ證明スヘシ
- 三 届出タルニ因リ得タル權利ハ本國ニ於テ商標ヲ保護スル時間ニ限ルヘシ

第二十一條 此規則ハ千八百七十五年五月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ

同日前ニ連邦ノ保護ヲ受ケタル商標ニハ此規則ニ因リ更ニ届出ルマテ連邦ノ法律ヲ適用スヘシト雖モ千八百七十五年十月一日ヲ越

ユヘカラス

千八百七十五年八月廿日ノ布達

澳地利國ト獨逸國ト互ニ商標ヲ保護スル條約

獨逸國ト澳地利國ト商標ノ保護ニ付キ條約ヲ爲スコト左ノ如シ

澳地利國ニ於ケル獨逸人ノ商標及ヒ獨逸國ニ於ケル澳地利人ノ商標ハ内國人同様ノ保護ヲ受クヘシ又他國ニ於テ其保護ヲ受ケントスル者ハ其國ノ法律ニ因リ商標ヲ差出スヘシ澳地利ニ於テハ之ヲ「ワイン」又ハ「ブダベスト」ノ商法營業掛ニ差出スヘシ此條約ハ一方ヨリ解約ヲ申述ヘタル後一年ヲ經ルマテハ其効ヲ有スヘシ又之ヲ公告シタル日ヨリ其効ヲ有スヘシ

此條約ハ千八百七十四年十一月三十日ノ商標保護規則第二十條ニ
因リ布達スルモノトス

魯國ト獨國トノ條約ハ千八百七十三年八月十八日

佛國ト獨國トノ條約ハ千八百七十三年十月八日

伊國ト獨國トノ條約ハ千八百七十五年四月廿日

白國ト獨國トノ條約ハ千八百七十五年九月十三日

巴國ト獨國トノ條約ハ千八百七十七年二月廿八日ニ布達シタリ(其
文語同一ナレハ之ヲ略ス)

見本及ヒ雛形ニ係ル發明者ノ權利規則 千八百七十六年
一月十一日

第一條 營業上ノ見本雛形ノ全部又ハ一部ヲ模造スル權ハ獨リ發明
者ニアリトス

此規則ノ見本雛形トハ新規一種ノ製作物ヲ云フ

第二條 內國製造場所主ノ依托及ヒ計算ヲ以テ其製造場ニ備フタ
ル畫工彫物師等ノ作りタル見本雛形ハ別ニ契約ナキハ其所有主
ヲ以テ發明人トス

第三條 發明人ノ權利ハ其相續人ニ移轉スヘシ其權利ノ全部又ハ一
部ヲ契約遺言書ヲ以テ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第四條 見本雛形ヲ作ル爲メ他人ノ見本雛形ノ一部ノ趣向ヲ取用ス
ルコトハ偽造ト看做スヘカラス

第五條 權利者ノ許可ヲ受ケスシテ其見本雛形ヲ模造公布スルコトヲ

見本雛形發明者權利規則

禁ス左ニ掲クル者モ亦禁シタル模造ト看做スヘシ

一 之ヲ造ルル原物ヨリハ他ノ方法ヲ用フルカ又ハ原物ヨリハ他ノ營業ニ用フルル

二 原物ヨリ他ノ寸法又ハ彩色ヲ用ヒタルカ又ハ原物ヨリ變更シテ最モ注意セサレハ之ヲ區別スルヲ能ハサルル

三 原物ニ據ラスシテ其模造ニ據テ作りタルル

第六條 左ニ掲クル者ハ禁シタル模造ト看做スヘカラス

一 營業ノ爲メ公布スル目的ニ非ラスシテ作りタル二三ノ模造

二 見本ヨリシテ平地ニ彫刻シタル物及ヒ其彫刻物ヨリ見本ニ作りタル者

三 書類ニ見本雛形ヲ掲載スル

第七條 見本雛形ノ發明人ハ之ヲ官署ニ届出テ、雛形簿ニ登記セシ

メ且一箇又ハ其寫一枚ヲ差出スニ非サレハ模造ニ對シ其保護ヲ受クルヲ得ス

其届出等ノ手續ハ雛形見本ヲ公布スル前ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 此規則ノ保護ハ雛形見本發明人ノ望ニ因リ届出タル日ヨリ

(第七條)一ケ年又ハ三年ニ至ルマテ之ヲ爲スヘシ

又發明人ハ第十二條第三項ノ手数料ヲ納メ十五年以内ノ保護ヲ求ムルヲ得其保護期限ヲ延ハシタルルハ之ヲ雛形簿ニ登記スヘシ

又發明人ハ届出タル後三年又ハ十年ヲ經過シタル時ト雖モ亦前項ノ請求ヲ爲スヲ得

第九條 雛形簿ハ商人簿ヲ備ヘタル裁判所ニ貯フヘシ

見本雛形發明者權利規則

又發明人ハ本店所在地ノ裁判所(商法裁判所)ニ届出且見本雛形ヲ差出スヘシ又登記シタル店號ヲ有セサルキハ住居地ノ裁判所ニ其手數ヲ爲スヘシ

内國ニ本店又ハ住居ヲ有セサル發明人ハ「ライプチヒ」ニアル商事裁判所ニ其届出等ヲ爲スヘシ

見本雛形ハ其儘又ハ封シテ之ヲ差出シ又ハ各別ニシ又ハ一纏メニ包ミテ差出スコトヲ得但包ミタル物ハ五十箇以下ニシテ十「キログラム」以下タルヘシ宰相ハ雛形簿ニ付キ細則ヲ發スヘシ

封シタル見本ハ届出タル後(第七條)三年ヲ經又其期限短キキハ之ヲ經過シタル後ニ開クヘシ

保護期限ノ登記及ヒ延期(第八條第二項)ハ毎月獨逸官報ヲ以テ之

ヲ公告シ其費用ハ届出人ニテ擔當スヘシ

第十條 雛形簿ノ登記ハ届出人ノ權利ノ有無又届出タル事故ノ正否ヲ調査セスシテ之ヲ爲スヘシ

第十一條 何人タリトモ雛形簿及ヒ封セサル見本雛形ヲ檢閲シ且雛形簿ノ公正ナル抜抄ヲ求ムルコトヲ得雛形見本保護ノ有無ニ付キ爭訟ヲ生シタルキハ其裁定ヲ爲サンカ爲メ雛形簿ヲ備ヘタル官署ニ於テ封シタル見本雛形モ亦之ヲ開クコトヲ得

第十二條 凡テ届書調書證書公證抜抄等雛形簿ノ登記ニ係ルモノハ印紙料ヲ要セス

見本一箇又ハ其一包(第九條)ヲ登記貯藏スル爲メ其保護期限三年(第八條第一項)以下ナレハ一年ニ付キ「マルク」ノ手數料ヲ納ム

見本雛形發明者權利規則

ヘシ第八條第二項ニ因リ長キ期限ヲ請求シタルハ十年マテハ四年目ヨリハ一年ニ付キ一箇毎ニ「マルク」十五年マテハ十一年目ヨリ一年ニ付キ一箇毎トニ三「マルク」ノ手数料ヲ納ムヘシ登記證及ヒ簿冊ノ拔抄ニ付テハ各一「マルク」ノ手数料ヲ納ムヘシ

第十三條 第七條ニ因リ雛形簿ニ登記シ且見本雛形ヲ差出シタル者ハ反對證ノアルマテハ其發明人ト看做スヘシ

第十四條 千八百七十年六月十一日ノ著述人ノ權利規則第十八條ヨリ第三十六條マテ及ヒ第三十八條ノ規則ハ雛形見本發明人ノ權利ニモ亦之ヲ適用スヘシト雖モ其模造及ヒ其器具ハ之ヲ毀損スルヲナク所有者ノ望ニ任カセ其費用ヲ以テ變造セシメ又ハ保護期限ノ經過スルマテ之ヲ官署ニ保存セシムルヲ得

同規則第三十一條ニ因リ見本雛形ノ模造ニ付キ意見ヲ述ヘシムヘキ鑑定人組合ハ技藝者諸營業者及ヒ見本雛形ニ熟達スル者ヨリ組立ヘシ

第十五條 此規則ノ損害賠償及ヒ不正ノ利益沒收ニ係ル爭訟ハ獨逸及ヒ連邦ノ法律ニ從テ商事ト看做スヘシ

第十六條 此規則ハ内國ニ於テ内國發明人ヨリ作りタル見本雛形ノ爲メニ設ケタルモノナリ但之ヲ内國ノ爲メ外國ニ公布スルモ妨ケナシ

獨逸國內ニ本店ヲ有スル外國人ハ内國ニ於テ製作シタル物ニ付キ此規則ノ保護ヲ受クヘシ

其他ハ舊來ノ條約ニ從テ外國發明人ノ權利ヲ定ムヘシ

見本雛形發明者權利規則

第十七條 此規則ハ千八百七十六年四月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ因テ其期日後ニ作りタル見本雛形ニ用フヘキモノトス其期日前ニ作りタル見本雛形ハ其期日後ニ製作物ヲ公布スルニ非サレハ保護ヲ受クルコトヲ得ス

舊來連邦ノ保護ヲ受ケタル見本雛形ハ後來モ亦其保護ヲ受クヘシト雖モ連邦ノ法律ニ因テ定メタル地方外ニ其効力ヲ及スコトヲ得ス

著述、圖面、樂譜、戲題ノ著作人權利規則千八百七十年六月十一日發

第一 著述

① 著述人權利

第一條 器械ヲ以テ著述物ヲ印刷スル權ハ獨リ著述人ニアリトス

第二條 此規則ノ保護ニ付テハ數人ノ著述ヲ編纂スル者モ亦著述人

ト同一ニ看做スヘシ但一箇ノ著述物タルキニ限ルヘシ

各著述ノ權ハ其著述人ニ在ルヘシ

第三條 著述人ノ權ハ其相續人ニ移ルヘシ又其權ノ全部又ハ一部ハ

契約遺言ヲ以テ之ヲ他人ニ讓與スルコトヲ得

② 僞版ノ禁

第四條 權利者ノ許可ヲ得スシテ(第一條第二條第三條)著述物ヲ印

刷スルハ僞版トシ之ヲ禁ス

著述物ノ全部又ハ一部ヲ印刷スルニ拘ハラス一切之ヲ禁スヘシ

印刷ニ代用スヘキ謄寫モ亦印刷ト看做スヘシ

第五條 左ニ掲クル者モ亦偽板者ト看做スヘシ(第四條)

① 著述人ノ許可ヲ受ケスシテ未タ出版セサル草稿ヲ印刷シタル者

草稿又ハ其謄寫ノ正當ナル所有者ト雖モ之ヲ印刷スルニハ必ス著述人ノ許可ヲ受クヘシ

② 講義人ノ許可ヲ受ケスシテ宗旨教育歡娛ノ爲メニ爲シタル講義ヲ印刷シタル者

③ 著述人又ハ出版人ノ契約ニ背キ著述物ヲ再版シタル者

④ 契約又ハ法律ニ於テ許可シタルヨリ多數ヲ印刷シタル出版人

第六條 著述人ノ許可ヲ受ケスシテ左ノ場合ニ於ケル翻譯ヲ爲シタルモ亦偽版ト看做スヘシ

① 現今不通用ノ言語ヲ用ヒタル著述物ヲ通用語ヲ以テ翻譯シタル

并

② 數國ノ言語ヲ用ヒテ著述シタル物ヲ其内一語ノ翻譯ヲ爲シタル

并

③ 標題又ハ著述ノ初頭ニ於テ翻譯ヲ禁シタルモ但翻譯書ハ著述物

ヲ發行シタル後一年內ニ之ヲ發行シ三年內ニ畢ルヘキモニ限ル

ヘシ著述物ヲ發行シタル年ハ之ヲ期限ニ算入スヘカラス

數卷數篇ニ分チタル著述物ハ本條ニ於テ各卷各篇ヲ各別ノ著述物

ト看做シ各卷各篇ニ翻譯ヲ禁スルコトヲ記スヘシ

戲題書ニ於テハ之ヲ發行シタル日ヨリ六ヶ月內ニ全ク翻譯書ヲ發行シタルモノタルヘシ

翻譯ノ始終ハ本條ノ期限內ニ於テ届出之ヲ登記簿(第三十九條已

著作人權利規則

下)ニ登記セシムヘシ然ラサレハ更ニ翻譯スル者ニ對シ其保護ヲ受クルコトヲ得ス

保護ヲ受ケタル草稿(第五條ノ①②)ノ翻譯モ亦偽板ト看做スヘシ
翻譯モ亦著述物ニ等シク此規則ノ保護ヲ受クヘシ

④ 偽板ト看做ス可カラサル者

第七條 左ニ掲クル者ハ偽板ト看做スヘカラス

① 一種ノ主義ヲ以テ著シタル學問上ノ大ナル著述物又ハ著述人數名ノ著述物ヲ編纂シタル宗教教育其他文學上ノ用ニ供スヘキ物
ノ内ニ他人ノ著述物ノ一二箇所又ハ一部又ハ小ナル著述物ノ全部ヲ其儘掲載シタル者但著述人ノ氏名又ハ掲載シタル引書目ヲ記スヘシ

② 定期出版物其他ノ雜誌ヨリ二三ヶ條ヲ拔抄シタル者但發明物ヲ掲載シタル雜誌學問上ノ公告其他大ナル報告ノ拔抄ヲ禁シタルモノハ此限ニ在ラス

③ 法律全書、法律、布告、布達、官文書ノ出版

④ 裁判所、議院、團結會、宗旨組合會及ヒ政事上ノ集會ニ於テ演說シタルコトノ出版

⑤ 著述人ノ權利期限

第八條 此規則ノ偽版ニ對スル保護ハ著述人ノ存命中(第一條第二條)及ヒ其死後三十年間繼續スヘシ但左ノ條ニ於テ別ニ定メタル者ハ此限ニ在ラス

第九條 數人合併シタル著述書ニ於ケル保護期限ハ最後ニ死シタル

著作人權利規則

後三十年間繼續スヘシ

著述人數名ノ著述物ヲ編纂シタル書ノ保護期限ハ其各著述物ニ著述人ノ氏名ヲ記シタルト記セサルトニ因テ(第八條第十一條)之ヲ定ムヘシ

第十條 定期出版物例ヘハ雜誌、曆、袖珍本等ニ掲載シタル論說等ハ別ニ契約アラサレハ其著述人ヨリ出版物ノ編纂人又ハ出版人ノ承諾ヲ受ケサルモ發行後二年ヲ經過スレハ別ニ出版スルコトヲ得

第十一條 生存中ニ發行シタル著述物ニ於テ第八條ノ保護ヲ受ケントスルニハ必ス標題序文緒言ニ著述人ノ氏名ヲ掲クヘシ
數人ノ著述物ヲ編纂シタル書ニ於テ各著述物ノ保護ヲ受クルニハ其前後ニ著述人ノ氏名ヲ掲載スルヲ以テ足レリトス

著述人ノ氏名又ハ別稱異名ヲ掲ケサル著述物ノ保護期限ハ最初ノ發行ヨリ三十年間繼續スヘシ(第二十八條)

最初ノ發行ヨリ三十年間ニ著述人又ハ其正當ナル相續人ヨリ氏名ヲ届出テ登記簿ニ(第三十九條已下)記入シタルハ第八條ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十二條 著述人ノ死後ニ發行シタル著述物ハ死後三十年間保護ヲ受クヘシ

第十三條 技術學校、大學校、公立學校、其他法律上人ト看做スヘキ者學者組合其他ノ組合ニ於テ編纂ヲ爲シタルカ爲メ著述人ト同一ニ看做スヘキ者(第二條)ハ其著述物發行後三十年間保護ヲ受クヘシ

第十四條 數卷數篇ヲ以テ發行スル著述物ノ保護期限ハ最初各卷各

篇ヲ發行シタル日ヨリ起算スヘシ

但數卷數篇ニ於テ一事件ヲ論シ之カ爲メ連續シタル者ト看做スヘ

キ著述物ノ期限ハ最後ノ卷篇ヲ發行シタル日ヨリ起算スヘシ

各卷各篇ヲ發行スル間ニ三年已上中絶シタルハ最初發行シタル

卷篇ヲ一著述物ト爲シ又三年後ニ發行シタル者ヲ新著述物ト看做

スヘシ

第十五條 翻譯書發行ノ禁ハ第六條ノ(ロ)ノ場合ニ於テハ原書ノ發行

後五年(ハ)ノ場合ニ於テハ正當ナル翻譯書ヲ最初ニ發行シタルヨリ

五年ナリトス

第十六條 此規則ノ保護期限ニハ(第八條已下)著述人ノ死去シタル

年又ハ著述物ヲ最初ニ發行シタル年ヲ算入スヘカラス

第十七條 政府ノ出納局其他所有者ナキ物ヲ所有スル權ハ出版權ニ

適用スルコトヲ得ス

⑥ 損害賠償及ヒ罰

第十八條 故サヲニ又ハ疏虞懈怠ヨリ獨逸内外ニ公告センカ爲メ偽

版(第四條已下)ヲ爲ス者ハ著述人又ハ其相續人ニ對シ損害賠償ヲ

爲スヘキノミナラス千「ターレル」已下ノ罰金ニ處スヘシ

然レモ免スヘキ事實又ハ法律上ノ疑惑ヨリ良心ニテ犯シタルハ

其罰ヲ免スヘシ

罰金ヲ納ムルコト能ハサルハ刑法ニ因リ之ヲ六ヶ月已下相當ノ自

由ヲ奪フ刑ニ換フヘシ

被害者ノ求メニ因リ損害ノ賠償ヲ爲サシメヌシテ二千「ターレル」已

下ノ過怠金ヲ出サシメ之ヲ本人ニ給スルコトヲ得過怠金ノ責メハ家
資分散ニ至ルヘシ

過怠金ヲ出サシメタルハ更ニ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

偽版ノ罪ナキハ著述人又ハ相續人ニ對シ利益ヲ得タル分ノ損害
賠償ヲ爲サシムヘシ

第十九條 損害ヲ生シタルヤ如何ナル損害ノ賠償ヲ爲スヘキヤ又利
益ヲ得タルヤ否ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 故意又ハ疏虞ヲ以テ他人ヲシテ偽版セシメタル者ハ第十
八條ノ刑ニ處シ著述人又ハ其相續人ニ對シ第十八條第十九條ノ損
害賠償ヲ爲スヘシ但第十八條ニ因リ偽版者ヲ罰セサルカ又ハ損害
ノ賠償ヲ爲サシメタルハニ於ケルモ亦同シ

偽版者モ亦故意懈怠ヲ以テ爲シタルハ權利者ニ對シ犯人各獨立
シテ其責ニ任スヘシ

其他偽版ニ加ハリタル者ノ刑及ヒ損害賠償ハ法律ニ因テ之ヲ定ム
ヘシ

第二十一條 貯藏シタル偽出版物及ヒ偽版ニ供シタル器具例ヘハ活版
石版等ハ之ヲ沒收スヘシ所有者ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ
其器具ヲ破壊スルカ又ハ其形狀ヲ變シテ之ヲ所有者ニ還付スヘシ
著述物ノ一部偽版ナルハ其偽版ニ係ル一部及ヒ器具ヲ沒收スヘ
シ

偽出版物及ヒ器具ノ偽版者印刷人書肆、販賣、及ヒ教唆者(第二十條)
ニ屬スル者ハ一切之ヲ沒收スヘシ

沒收ハ僞版者又ハ教唆者ノ故意懈怠ニ出サルモ(第十八條)亦之ヲ爲スヘシ又其沒收ハ相續人ニ對シ之ヲ爲スヘシ

被害者ハ出版費用ヲ出シ僞出版物及ヒ其器具ノ全部又ハ一部ヲ引受クルコトヲ得但之レニ因テ他人ノ權利ヲ害セサルモニ限ルヘシ

第二十二條 出版ニ係ル輕罪ハ此規則ニ背キ獨逸内外ニ於テ一部ノ僞版ヲ爲シタルヲ以テ已遂犯トス

未遂犯人ハ其刑ニ處セス且損害賠償ヲ擔當セシメサレモ其器具(第二十一條)ハ之ヲ沒收スヘシ

第二十三條 再犯ノモト雖モ此規則ニ定メタル刑ノ最高已上ニ處スヘカラス(第十八條)

第二十四條 第七條①ノ場合ニ於テ故意懈怠ヨリ著述人ノ氏名又ハ

引書目ヲ記セサルモハ其出版及ヒ教唆者ヲ二十「ターレル」已下ノ

罰金ニ處スヘシ

罰金ハ自由ヲ奪フ刑ニ換フヘカラス

損害ノ賠償ヲ爲サシムヘカラス

第二十五條 故意ヲ以テ此規則ニ背キタル出版物ヲ獨逸國內外ニ販賣公布シタル者ハ自カラ被フリタル損害ノ多少ニ因リ著述人又ハ其相續人ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲スヘキノミナラス又第十八條ノ罰金ニ處セララルヘシ

犯人故意ヲ以テ爲サルモ雖モ亦第二十一條ニ因リ現有ノ僞版物ヲ沒收スヘシ

僞版人及ヒ教唆者ノ名義ヲ以テ損害賠償ヲ擔當セス且其刑ニ處セ

ラレサルキト雖モ其公布ノ罪ハ仍ホ其刑ニ處シ且其損害賠償ヲ爲
サシムヘシ

㊦ 裁判手續

第二十六條 此規則ニ定メタル刑ニ處シ偽出版物等ヲ沒收シ且損害賠
償ヲ裁判スルハ通常裁判所ノ權限ナリトス

偽出版物等ノ沒收ハ刑事裁判所ニ於テ爲シ又ハ民事裁判所ニ於テ之
ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 刑事裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ開クヘカラス必ス被害者ノ
告訴ヲ待ツヘシ告訴ハ裁判宣告アルマテ之ヲ願下クルコトヲ得

第二十八條 偽版ノ告訴ハ偽版ニ因テ著述又ハ出版ノ權ヲ害セラレ
タル者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

生存中發行シタル著述物ニ在テハ反對證アルマテハ第十一條第一
項第二項ニ因リ其著述物ニ記シタル者ヲ以テ著述人ト看做スヘシ
無名偽名ヲ掲ケタル著述物ニ在テハ編纂人ニ又編纂人ナキハ出
版人ニ著述者ノ權アリトス著述物ニ掲ケタル出版人ハ別ニ證據ア
ラサルモ無名偽名ノ著述者ノ相續人ト看做スヘシ

第二十九條 偽版及ヒ偽版ヨリ生スル利益ノ爭訟ニ於テハ裁判官ハ
證據規則ニ拘泥セス必ス審問ヨリ感シ得タル心證ニ據テ自由ニ裁
判ヲ爲スヘシ

又裁判官ハ偽版人又ハ其教唆者(第十八條第二十條)ノ疏虞ニ出タ
ルヤ否ヲ裁判スルニ付キ連邦法律ニ掲ケタル疏虞ノ輕重ニ從フニ
及ハス

第三十條 偽版ノ事實損害又ハ利益ノ高ニ關スル技術上ノ問題ニ付
キ疑アルカ又ハ爭訟ノ起リタルハ裁判官ヨリ鑑定人ノ意見ヲ聞
クヲ得

第三十一條 連邦ハ學者著述者書肆其他相當ノ者ヨリ鑑定人組合ヲ
作ルヘシ組合ハ裁判官ノ求メニ因リ其意見ヲ述フヘシ又他ノ一連
邦ハ他ノ連邦ト合シ又ハ數連邦合併シテ一組合ヲ作ルヲ得鑑定
人組合ハ關係者ノ依頼ニ因リ爭訟ノ起リタル損害賠償及ヒ沒收ニ
付キ仲裁裁判官ト爲リ第十八條ヨリ第二十一條マテニ從テ其裁判
ヲ爲スコヲ得
宰相局ハ鑑定人組合ノ編制事務規則ヲ發スヘシ(千八百七十年十
二月十二日ニ此規則ヲ發シタリ)

第三十二條 千八百六十九年六月十二日ノ上等商法裁判所設立規則
第十二條第十三條ニ於テ裁判權限ヲ定メタルモノハ此規則ニ於ケ
ル損害賠償沒收ニモ亦之ヲ適用スヘシ
上等商法裁判所ハ此規則ニ於ケル刑事ニ付テモ亦其事件ノ初審裁
判ヲ爲シタル連邦ノ上等裁判所ニ代リ其權限ヲ以テ裁判ヲ爲スヘ
シ

上等商法裁判所ノ權限ニ屬スル刑事ノ手續ハ其事件所屬ノ連邦治
罪法ニ從フヘシ此場合ニ於ケル檢事ノ職務ハ連邦上等裁判所ノ檢
事ニテ爲スヘシ但檢事ハ公判ノ「ライプチヒ」所屬ノ檢事又ハ其
地住居ノ代言人ヲシテ代理セシムルヲ得
上等商法裁判所權限内ノ終審刑事裁判ト連邦上等裁判所權限内ノ

終審刑事裁判ト合併シテ一事件ト爲スコヲ得ス
千八百六十九年六月十二日ノ規則第十條第十二條二項第十六條二
項第十七條第十八條第二十一條及ヒ第二十二條ノ規則ハ上等商法
裁判所ノ管轄刑事ニモ亦之ヲ適用スヘシ

① 期滿免除

第三十三條 偽版、損害賠償、利益ノ訴ハ(第十八條)三年ヲ經テ期滿
免除トスヘシ期滿免除ノ期限ハ偽版物ヲ公布シ始メタル日ヨリ起
算スヘシ

第三十四條 偽版物ノ公布及ヒ損害賠償ノ訴モ(第二十五條)亦三年
ヲ以テ期滿免除トスヘシ
期滿免除ノ期限ハ最後ニ公布シタル日ヨリ起算スヘシ

第三十五條 權利者ニ於テ犯罪及ヒ犯人ヲ知リタルヨリ三月内ニ告
訴セサルハ偽版及ヒ其公布ノ刑ヲ免スヘシ

第三十六條 偽版物及ヒ器具ノ沒收、破壊(第二十一條)ニ係ル告訴
ハ其現存中之ヲ爲スコヲ得

第三十七條 第七條①ノ場合ニ於ケル著述人ノ氏名又ハ引書目ヲ記
セサル違警罪ハ三月ヲ經テ期滿免除ト爲ルヘシ

期滿免除ノ期限ハ出版物ヲ公布シ始メタル日ヨリ起算スヘシ

第三十八條 期滿免除ノ經過ヲ中止スヘキ所爲ハ法律ニ因テ之ヲ定
ムヘシ刑事裁判ヲ開クモ損害賠償ノ期滿免除ヲ中止セス又損害賠
償ノ訴ヲ爲スモ刑事ノ期滿免除ヲ中止セス

② 登記簿

著作人權利規則

第三十九條 第六條第十一條ノ登記ヲ爲スヘシ簿册ハ「ライプチヒ」ノ郷輔佐官ニ備置シヘシ

第四十條 郷輔佐官ハ關係者ノ届出ニ因リ其權利又ハ届出事件ヲ檢査スルコトナク登記スヘシ

第四十一條 宰相局ハ登記簿規則ヲ發スヘシ何人タリトモ登記簿ヲ檢閲シ其公正ノ拔抄ヲ求ムルコトヲ得登記事件ハ書肆ノ爲メニ設ケタル商人集會公告紙又其發行ヲ已メタル所ハ宰相局ヨリ命シタル新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四十二條 凡テ登記ニ係ル届書、調書、證書、公證、拔抄等ハ印紙料ヲ取立ツヘカラス

然レモ登記、登記濟證及ヒ登記簿ノ拔抄ハ十五「シルベルグロ」セ

ンノ手数料ヲ取立ツヘシ又届出人ハ公告費用(第四十一條)ヲ擔當スヘシ

第二 地理圖詳細地圖、算理圖、建築圖、其他技術等ノ圖面

第四十三條 第一條ヨリ第四十二條マテノ規則ハ地理圖詳細地圖、算理圖、建築圖、其他技術圖等凡テ美術ト看做スヘカラサルモノニモ亦之ヲ適用スヘシ

第四十四條 他ノ著述物ヨリ二三ノ圖ヲ掲載スルモ著述ヲ主トシ其圖ハ止々説明等ニ用ヒタル所ハ之ヲ僞板ト看做スヘカラス但著述人ノ氏名又ハ引書目ヲ記スルニ非サレハ第二十四條ノ刑ニ處セラ

第三 音樂ノ譜

著作人權利規則

第四十五條 第一條ヨリ第五條マテ第八條ヨリ第四十二條マテノ規則ハ音樂ノ譜ヲ出版スル權ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第四十六條 著述人ノ許可ヲ受ケスシテ發行シタル譜ノ一種新撰ノモノニ非サルキハ之ヲ僞板ト看做スヘシ特ニ譜ヨリ抜抄スルカ一箇又ハ數箇ノ調子ニ和スルカ又ハ美術ト看做スヘカラサル著述物ヨリ趣向又ハ調子ヲ取用シタルモノハ僞版ナリトス

第四十七條 已ニ發行シタル音樂ニ係ル著述物ノ二三ノ箇條ヲ掲載スルカ一種新撰ノ學問上ニ用フル著述物及ヒ音樂教育所ニ用フル音樂譜編纂中ニ小ナル譜ヲ掲載スル者ハ僞版ト看做スヘカラス但著述者ノ氏名又ハ引書目ヲ記セサルキハ第二十四條ノ刑ニ處セラ
ルヘシ

第四十八條 已ニ發行シタル著述書ヲ音樂譜ノ歌ニ用ヒ其譜ト歌トヲ同時ニ出版シタルキハ僞版ト看做スヘカラス
然レモ專ハラ譜ノ爲メニ作りタル歌特ニ劇場ノ歌ニ作りタルモノハ格別ナリトス此類ノ歌ハ著述者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ譜ト同時ニ出版スルコトヲ得ス

歌ノミヲ出版スルニハ著述者又ハ其相續人ノ許可ヲ受クヘシ
第四十九條 第三十一條ニ因リ譜ノ僞版ニ付キ意見ヲ述フヘキ鑑定人組合ハ譜ノ作者音樂者及ヒ音樂商ヨリ成ルヘシ

第四 劇場ノ戲作、遊劇音樂書、ヲ公ケニ興行スルコト
第五十條 戲作書音樂書又ハ戲作音樂書ヲ公然興行スル權ハ獨リ著述者及ヒ其相續人(第三條)ニアリ

戯作書及ヒ戯作書音楽書ニ於テハ已ニ之ヲ出版發行シタルト否ト
ニ拘ハルコトナシ出版發行シタル音楽書ニ在テハ其著述者ヨリ標題
又ハ著述書ノ初頭ニ於テ興行ヲ禁シタルニ非サレハ著述者ノ許可
ヲ受ケスシテ公ケニ興行スルコトヲ得

戯作書ノ正當ナル翻譯者ハ其興行ニ付キ著述者ト同一ノ權ヲ有ス
ヘシ

正當ナラサル翻譯(第六條)又ハ著述(第四十六條)ヲ公ケニ興行ス
ルコトヲ禁ス

第五十一條 著述者數名ナルハ其著述ヲ興行スルニハ各著述者ノ
許可ヲ受クヘシ

音楽書(歌ヲ含ム)及ヒ戯作音楽書ニ在テハ譜ノ作者ノ許可ヲ受ク

ルヲ以テ足レリトス

第五十二條 公ケニ興行スル權ノ期限ハ第八條ヨリ第十七條ノ規則
ニ從テ之ヲ定ムヘシ

正當ナル最初ノ興行ノ未タ出版發行セサル無名偽名ノ著述ニ在
テハ最初ノ興行ヨリ三十年間著述者ノ死後ニ發行シタル著述ニ在
テハ死後三十年間其興行ヲ保護スヘシ

無名偽名ノ著述書ノ著述者又ハ其相續人ヨリ三十年内ニ著述者ノ
氏名ヲ届出登記簿ニ(第三十九條)記入シタルカ又ハ著述者ヨリ同
期限已内ニ其氏名ヲ公告シタルハ八條ノ規則ヲ適用スヘシ

第五十三條 未タ出版セサルカ又ハ公ケニ興行セサル戯作書音楽書
又ハ戯作音楽書ニ在テハ反對證アルマテハ興行ノ著述者トシテ

公告シタル者ヲ以テ著述者ト看做スヘシ

第五十四條 故意又ハ懈怠ヨリ戯作書音樂書又ハ戯作音樂書ヲ其儘又ハ僅少ナル變更ヲ以テ濫リニ興行シタル者ハ其著述者又ハ相續人ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲スヘキノミナラス第十八條第二十三條ノ罰金ニ處スヘシ

教唆者ニハ第二十條ノ規則ヲ適用スヘシト雖モ賠償ノ高ハ第五十五條ニ因テ定ムヘシ

第五十五條 第五十四條ノ場合ニ於テ權利者ニ給スヘキ賠償高ハ興行ノ費用ヲ扣除セサル總收入高ナリトス、他ノ著述物ト同時ニ興行シタル者ハ其情況ヲ酌量シ相當ノ收入高ヲ以テ賠償高ト爲スヘシ

收入高ヲ調査スルコト能ハサルカ又ハ之ナキ者ハ裁判官ノ意見ヲ以テ其高ヲ定ムヘシ

興行人ニ罪ナキ者ハ權利者ニ對シ興行ヨリ得タル利益高ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五十六條 第二十六條ヨリ第四十二條マテノ規則ハ戯作書音樂書又ハ戯作音樂書ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第五 總則

第五十七條 此規則ハ千八百七十一年一月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ
舊來連邦ニ行ハル、著述、畫圖、音樂譜、戯作書、著述權規則ハ本日ヨリ廢止タルヘシ

第五十八條 此規則ハ其効力ヲ得ル前ニ發行シタル著述、畫圖、音樂

著作人權利規則

譜、戯作書ニモ亦適用スヘシ但舊來偽版不正ノ興行ニ對シ連邦ノ保護ヲ受ケサル者ニ於ケルモ亦同シ

此規則ノ効力ヲ得ルモ存在スル出版物ハ舊來ノ法律ニ於テ之ヲ許シタル者ナレハ此法律ニ於テ禁シタル者ト雖モ亦之ヲ後來公布スルコトヲ得

又此規則ノ効力ヲ得ルモ存在スル舊來ノ正當ナル器具例ヘハ活版石版等ハ後來モ亦出版ノ用ニ供スルコトヲ得

又此規則ノ効力ヲ得ルトキ已ニ始メタル出版ハ舊來禁シタル者ニ非サレハ之ヲ竣功セシムルコトヲ得

連邦政府ハ後來ノ使用ヲ許シタル器具ニ付キ目錄ヲ作り且其器具ニ一定ノ官印ヲ捺スヘシ又本條ニ因リ後來ノ公布ヲ禁シタル出版

物ニモ官印ヲ捺スヘシ

官印ヲ捺スルモ定メタル期限ヲ經過シタル後ハ權利者ノ告訴ニ因リ凡テ官印ヲ捺セサル器具出版物ヲ沒收スヘシ器具目錄及ヒ官印ヲ捺スル手續ハ宰相局ヨリ規則ヲ發シテ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 舊來ノ連邦法律ニ於テ翻譯ヲ禁シ及ヒ最初ノ翻譯ヲ發行スルコトニ付キ第六條○ヨリハ他ノ書式及ヒ期限ヲ定メタル者ハ此規則ノ効力ヲ得ル前ニ發行シタルモノニ適用スヘシ

第六十條 著述者ノ權利ヲ保護スル爲メ後來ハ特權ヲ與フルコトヲ禁ス此規則ノ効力ヲ得ル前ニ舊獨逸國又ハ獨逸連邦ヨリ公布シタル特權ノ所持人ハ其權ヲ實用スルモ又ハ此規則ノ保護ヲ求ムルモ勝手タルヘシ

然レモ特權ノ保護ハ之ヲ公布シタル國內ニ於テノミ其効アルモノトス

又特權ノ保護ハ其全部又ハ要領ヲ著述物ノ初頭ニ記スルカ又ハ表紙ノ表裏ニ掲クルニ非サレハ之ヲ求ムルコトヲ得ス

著述物ノ性質ニ因リ特權ヲ記スルコト能ハサルカ又ハ舊來之ヲ記セサルモハ此規則發行後三ヶ月内ニ届出テ登記簿ニ記入シ且其官署ヨリ公告スルニ非サレハ自然消滅スルモノトス

第六十一條 此規則ハ内外國ニ於テ發行シタルト否トニ拘ハラズ内國著述者ノ著述物ニ適用スヘシ

獨逸國內ニ本店ヲ有スル出版人ヨリ發行シタル外國著述者ノ著述書モ亦此規則ノ保護ヲ受クヘシ

第六十二條 舊獨逸國ノ所屬ニシテ獨逸連邦ニ屬セサル地方ニ發行シタル外國著述者ノ著述物ハ本國ノ法律ニ於テ獨逸連邦發行ノ著述物ニ内國人ト同一ノ防護ヲ爲スニ非サレハ此規則ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス其保護期限ハ本國ニ於ケル期限ト同シ又獨逸連邦ニ屬セサレモ舊獨逸國民タル著述者ノ未タ發行セサル著述物モ亦同シ

鑑定人組合ノ編制事務規則

千八百七十年十二月十二日發

千八百七十年六月十一日ノ規則第三十一條第四十九條ニ因リ鑑定人組合ノ編制及ヒ事務ニ付キ左ノ條々ヲ確定ス

鑑定人組合規則

第一條 鑑定人組合ハ左ニ掲クル者トス

①文學鑑定組合

②音樂鑑定組合

連邦ニ於テハ文學音樂鑑定組合ニ箇已上ヲ設クヘカラス

第二條 各組合ハ組合長ヲ合シ鑑定人七名ヨリ成ルヘシ

鑑定人ニ故障アルトノ爲メ相當ノ員數ノ代理人ヲ命スヘシ

第三條 鑑定人及ヒ其代理人ハ管轄中央官署ヨリ命スヘシ又組合中

ヨリ長及ヒ其代理人ヲ命スヘシ鑑定人代理人ハ最初裁判所ニ於テ

鑑定人ノ誓約ヲ爲スヘシ

第四條 文學鑑定組合ハ裁判所ノ命ニ因リ左ニ掲クル箇條ニ係ル技

術上ノ問題ニ付キ意見ヲ述フヘシ

①著述物又ハ畫圖ノ僞版ニ係ル事實(千八百七十年六月十一日ノ

規則第一條已下第四十三條第四十四條)

②戲作書ノ正當ナラサル興行ニ係ル事實(同規則第五十條已下)

③僞版又ハ正當ナラサル興行ヨリ生シタル損害及ヒ利益ノ高

組合中ノ一名ハ畫家活版師等トシテ千八百七十年六月十一日ノ規

則第四十三條ニ掲ケタル畫圖ヲ製シ得ル者タルヘシ

第五條 音樂鑑定組合ハ裁判所ノ命ニ因リ左ニ掲クル箇條ニ係リ技

術上ノ問題ニ付キ意見ヲ述フヘシ

①音樂譜ノ僞版ニ係ル事實(同規則第四十五條已下)

②音樂書又ハ戲作音樂書ノ正當ナラサル興行ニ係ル事實(同規則

第五十條已下)

鑑定人組合規則

①偽版又ハ正當ナラサル興行ヨリ生シタル損害及ヒ利益ノ高

第六條 組合ハ裁判所ヨリ預シメ左ニ掲クル書類物件ヲ送付スルキ

ニ限り其意見ヲ述フヘシ

一 裁判書類

二 事實、争訟ノ關係ヲ記シタル調書ニ意見ヲ述フヘキ問題ヲ記シ

且其調書ニ記シタル事故ニ付キ雙方ヨリ如何ナル陳述ヲ爲シタ

ルヤ又ハ如何ナル理由アリテ其陳述ヲ爲サ、ルヤ否ヲ記シタル

書類

三 裁判所ノ官印ヲ捺スルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ混雜スルコトヲ防キ

タル對照スヘキ物件

第二ノ調書ハ組合ノ書類トシテ保存スヘシ

第七條 組合ヨリ意見ヲ述フヘキコトヲ組合長ニ申述ヘタルトハ組合

長ヨリ二名ノ主任者ヲ命シ各其意見ヲ書面ニ認メ組合會議ニ於テ

之ヲ朗讀スヘシ評議ヲ終リタル後ハ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ可否

同數ナルトハ組合長ノ意見ニ因ルヘシ

畫圖ノ偽版(千八百七十年六月十一日ノ規則第四十三條)ニ付キ意

見ヲ述フヘキトハ主任者ノ内一名ハ畫家活版師等ニシテ畫圖ヲ作

リ得ヘキ者タルヘシ

第八條 決議ヲ爲スニハ委員長及ヒ臨時立會タル代理人ヲ合シ鑑定

人五名已上之ニ加ハルヘシ七名已上其議ニ加ハルコトヲ得ス

第九條 議決ニ因テ意見書ヲ作り其投票ニ加ハリタル者署名シ組合

ノ印ヲ捺スヘシ其意見書ニ印紙ヲ貼スヘキヤ否ハ連邦ノ法律ニ從

鑑定人組合規則

フヘシ

第十條 組合ハ十「ターレル」已上百「ターレル」已下ノ手数料ヲ求ムル
コヲ得囑托シタル裁判所ハ意見書ヲ受領シタル後直ニ無賃ニテ其
手数料ヲ組合長ニ送付スヘシ

第十一條 千八百七十年六月十一日ノ規則第三十一條二條ニ因リ關
係者ヨリ組合ノ仲裁裁判ヲ求メントスルハ其公正ナル請求書ヲ
組合ニ送付スヘシ

第六條ヨリ第十條マテノ規則ハ此場合ニ於テモ亦適用スヘシ

美術物保護規則 千八百七十六
年一月九日發

第一 著作者ノ權利

第一條 美術物ノ全部又ハ一部ヲ模造スル權ハ獨リ著作者ニアリト
ス

第二條 著作者ノ權利ハ其相續人ニ移轉スヘシ其權利ノ全部又ハ一
部ハ契約遺言ヲ以テ他人ニ讓與スルコヲ得

第三條 此規則ハ建築術ニ適用ス可カラス

第四條 新ナル著作ヲ爲ス爲メ美術物ノ趣意ヲ取用スルハ之ヲ偽造
ト看做スヘカラス

第五條 權利者(第一條第二條)ノ許可ヲ受ケスシテ公布スル爲メ美
術物ヲ模造スルコヲ禁ス左ニ掲クル者モ亦偽造トシテ之ヲ禁ス
一 原物ヨリ他ノ方法ヲ以テ製作シタル并

二直チニ原物ニ據ラスシテ其模造ヲ製作シタルハ

三建築物製造物工場中ニ美術物ヲ製作シタルハ

四著作者又ハ出版人ニ於テ其契約ニ背キ更ニ出版ヲ爲シタルハ

五出版人ニ於テ契約又ハ法律ニ許シタルヨリ多數ヲ出版シタルハ

第六條 左ニ掲クル者ハ偽造ト看做ス可カラス

一公布スル目的ニ非シテ美術物ノ一二箇ヲ製作シタルハ但著作

者ノ氏名又ハ畧稱ヲ著作物ニ掲クルコトヲ禁ス之ニ背キタル者ハ

五百「マルク」已下ノ罰金ニ處スヘシ

二畫譜ヲ彫刻スルハ又ハ彫刻物ヨリ畫譜ニ作ルコト

三道路明地ニ在ル美術物ヲ模造シタルハ但同一ノ形容ヲ以テ模造

スヘカラス

四著述書中ニ二三ノ美術物ヲ掲クルハ但著述ヲ主トシテ其模造ハ

止タ説明ノ用ニ供シタルモノニ限ルヘシ又著作者ノ氏名又ハ其

模造ノ由來ヲ掲ケサレハ千八百七十年六月十一日ノ規則第二十

四條ノ刑ニ處セラルヘシ

第七條 正當ナル方法ヲ以テ他人ノ美術物ヲ模造シ他ノ製作法ヲ用

ヒタルハ已ニ原物ハ一般ニ之ヲ製作スルコトヲ得ル時ト雖亦其

美術物ニ付テハ著作者ノ權(第一條)ヲ有スヘシ

第八條 著作者ヨリ美術物ノ所有權ヲ他人ニ讓渡シタルハ將來其

模造權ヲ又他人ニ讓與スルコトヲ得ス但肖像、半身像ノ模造權ハ注

文者ニ移ルヘシ

美術物ノ所有者ハ著作者又ハ其相續人ニ於テ模造ヲ爲ス爲メ其美

術物ヲ交付スヘキ義務ナシ

第二 著作權ノ期限

第九條 此規則ニ於ケル模造防禦期限ハ著作生存中ハ勿論死後三
十年間繼續スヘシ

已ニ生存中ニ發行シタル美術書ノ保護ハ著作ノ氏名又ハ其記號
ヲ掲クルニ非サレハ前項ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス

偽名ヲ掲クルカ又ハ更ニ氏名ヲ掲ケサルハ發行後三十年間保護
ヲ受クヘシ此期限内ニ著作又ハ其相續人ヨリ氏名ヲ届出テ登記
簿ニ登記シタルハ(千八百七十年六月十一日ノ規則第三十九條)
第一項ニ掲ケタル保護ヲ受クルコトヲ得

第十條 數卷數篇ヲ以テ發行スルハ各卷各篇ヲ最初ニ發行シタル

日ヨリ保護期限ヲ起算スヘシ

然レモ數卷數篇ニ於テ一事件ヲ掲ケ連續スヘキ者ナルハ最後ノ
發行ヨリ其期限ヲ起算スヘシ

各卷各篇ノ發行中ニ三年以上中止スルハ最初發行シタル者ヲ獨
立シタルモノトシ三年後ニ發行シタルモノヲ更ニ新ナルモノト看
做スヘシ

第十一條 著作死亡シタル後ニ發行スルモノ、保護期限ハ死後三
十年間ナリトス

第十二條 定期出版物例ヘハ雜誌曆袖珍等ニ掲ケタル美術物ハ編纂
人又ハ出版人ノ許可ヲ受ケサルモ發行二年後ハ著作ヨリ別ニ之
ヲ發行スルコトヲ得但別ニ契約ナキハニ限ル

第十三條 保護期限ニハ著作者ノ死去シタル年又ハ美術物ノ公告發行ノ該年ヲ算入スヘカラス

第十四條 著作者ニ於テ其美術物ヲ製造工業ニ模造スルコトヲ許可シタルハ是等ノ業ニ於ケル模造ニ付キ後來ハ此規則ノ保護ヲ受ケスシテ見本雛形ノ保護ヲ受クヘシ

第十五條 政府出納局又所有者ナキ物ヲ所有スル權利者ハ所有主ナキ著作權ヲ所有スルコトヲ得ス

第三 著作權ノ保護

第十六條 千八百七十年六月十一日ノ規則第十八條ヨリ第四十二條マテノ規則ハ美術物ノ模造ニモ亦之ヲ適用スヘシ

同規則第三十一條ニ因リ美術物ニ付キ意見ヲ述フヘキ鑑定人組合

ハ諸種ノ技術家美術物販賣人其他美術ニ達スル者ヨリ組立ツヘシ

第四 總則

第十七條 此規則ハ千八百七十六年七月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ舊來獨逸連邦ニ行ハル、法律ハ本日ヨリ廢止タルヘシ

第十八條 此規則ハ効力ヲ得ル前ニ發行シタル美術物ノ舊來連邦ノ保護ヲ受ケサルモノニモ亦之ヲ適用スヘシ

此規則發行ノ際現在スル美術物ノ舊來ノ法律ニ因リ其製作ヲ禁セサルモノハ此規則ニ於テ禁シタルモノト雖モ亦後來之ヲ公布スルコトヲ得

又此規則發行ノ際現在スル正當ノ器具例ヘハ活版石版等ハ後來モ亦之ヲ用フルコトヲ得

此規則發行前ニ着手シタル正當ノ美術物ヲ竣工ニ至ラシムルコトヲ得

連邦政府ハ目錄ヲ作り後來使用ヲ許シタル器具ヲ記シ且其器具ニ一定ノ官印ヲ捺スヘシ

政府ヨリ定メタル期限後ハ官印ヲ捺セサル器具ハ被害者ヨリノ告訴ニ因リ之ヲ沒收スヘシ目錄及ヒ官印手續規則ハ宰相ヨリ之ヲ發スヘシ

第十九條 著作權ヲ保護スル爲メ後來ハ特權ヲ與フルコトヲ禁ス

此規則發行前ニ連邦政府ヨリ交付シタル特權者ハ其權ヲ實用スルトモ又ハ此規則ノ保護ヲ受クルトモ勝手タルヘシ特權ノ保護ハ之ヲ交付シタル國內ニ限り其効アルモノトス特權ノ保護ヲ求メント

スルニハ必ス之ヲ美術物ニ掲クルカ又ハ表紙ノ裏表ニ記スヘシ其性質ニ因リ掲クルコト能ハサルカ又ハ舊來之ヲ用ヒサルギハ此規則發行後三月内ニ登記簿ニ記入スルニ非サレハ自然消滅スヘシ登記官署ハ特權ヲ公告スヘシ

第二十條 此規則ハ内外國ニ發行シタルト否トニ拘ハラズ内國著作者ノ美術ニ適用スヘシ

内國出版人ニテ發行シタル外國著作者ノ美術ハ此規則ノ保護ヲ受クヘシ

第二十一條 舊獨逸所屬ニシテ連邦ニ屬セサル地方ニ發行シタル外國著作者ノ美術ハ本國ニ於テ獨逸發行ノ美術物ヲ内國人同様保護スルニ非サレハ此規則ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス但其期限ハ本國ニ

於ケルト同一ナリ

寫眞保護規則 千八百七十六年一月十日發

第一條 寫眞ノ全部又ハ一部ヲ器械ヲ以テ摸寫スル權ハ獨リ寫眞師

ニ在リトス

已ニ偽版偽造ノ保護ヲ受ケタル著作物ノ寫眞ニハ此規則ヲ適用ス

ヘカラス

第二條 新規ナル寫眞ヲ寫サンカ爲メ他人ノ寫眞ノ趣向ヲ用フルハ

摸寫ト看做スヘカラス

第三條 權利者ノ(第一條第七條)許可ヲ受ケスシテ公布スル爲メ他

人ノ寫眞ヲ摸寫スルコトヲ禁ス

第四條 製造工業ニ用フル寫眞ヲ摸寫スルハ之ヲ僞寫ト看做スヘカ

ラス

第五條 原寫ノ正當ナル摸寫又ハ器械ヲ以テ之ヲ複寫スルニハ其紙

ニ左ノ事件ヲ掲クヘシ

一 原寫人又ハ出版人ノ氏名又ハ店號

二 原寫人又ハ出版人ノ住所

三 最初正當ナル摸寫ヲ發行シタル年

以上ノ事件ヲ掲ケサルモノハ摸寫ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 此規則ノ保護ハ原寫人ノ爲メ五年間繼續スヘシ其期限ハ最

初正當ナル摸寫又ハ其他器械ヲ以テ爲シタル複寫ヲ發行シタル年

ノ經過シタル後起算スヘシ

寫眞保護規則

發行ヲ爲サ、ルルハ寫眞ノ原版ヲ作りタル年ノ經過シタルヨリ五年ナリトス

數卷又ハ數篇ヲ以テ發行スルニハ千八百七十年六月十一日ノ規則

第十四條ヲ適用スヘシ

第七條 第一條ニ掲ケタル原寫人ノ權ハ其相續人ニ移ルヘシ其權ハ

原寫人又ハ相續人ヨリ契約遺言ヲ以テ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡

スコトヲ得肖像ノ權ハ契約ナシト雖モ亦注文者ニ移ルヘシ

第八條 畫圖又ハ彫刻物ニ他人ノ寫シタル寫眞ヲ摸寫シタル者ハ其

美術物ニ付キ本年一月九日ノ規則第七條ニ因リ著作人ノ權ヲ有ス

ヘシ

第九條 千八百七十年六月十一日ノ規則第十八條ヨリ第三十八條マ

テ及ヒ第四十四條第六十一條第一項ノ規則ハ原寫人ノ摸寫權ニモ亦適用スヘシ

第十條 摸寫ニ付キ意見ヲ述フヘキ鑑定人組合ハ諸種ノ技術家美術物販賣人其他美術ニ熟達シタル者及ヒ寫眞師ヨリ組立ツヘシ

第十一條 此規則ハ寫眞ニ類スル方法ヲ以テ作りタル者ニモ亦適用スヘシ

第十二條 此規則ハ千八百七十六年七月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ本

日前ニ寫シタル寫眞ハ此規則發行後ニ原寫ノ摸寫又ハ其他器械ヲ以テ複寫シタル物ヲ始テ發行シタルニ非サレハ適用スヘカラス

舊來連邦政府ノ保護ヲ受ケタル寫眞ハ後來モ亦其寫眞ノ保護ヲ受

クヘシ但其保護ヲ受ケタル國內ニ限り其効ヲ有スヘシ

富籤ニ關スル布告 千八百十年五月廿八日ノ布告

富籤ナルモノハ僅少ナル價銀ヲ投シテ博奕ヲ爲スコヲ勸メ常ニ下等
社會ノ道德ヲ害シテ人心ヲ迷惑セシムルノ惡弊アルモノナレハ朕ハ
已ニ國內ニ之ヲ廢セント欲シタリ然ルニ戰爭混亂等ニ因テ終ニ其素
志ヲ果スコ能ハサリシ故ニ朕ハ富籤ノ方法ヲ改正シ從來ノ規則ノ害
アルモノヲ除キ利益ト爲ルモノヲ存シ且下等貧民ヲシテ富籤ニ加ハ
ラシメス今マテ之ヨリ政府ニ收入シタル高ヲ他ノ收入ヨリ之レニ充
テントス

第一條 數富ハ國內ニ之ヲ廢ス

大藏卿ハ最後ノ抽籤ヲ定ムヘシ

第二條 五籤富ハ其籤ヲ買ヒタル者ノ利益及ヒ數字ノ混雜ヨリ得ル

富籤ニ關スル布告

ツアーレン
ロットトハ
一ヨリ九十マ
テノ數ヲ定メ
隨意ニ之ニ懸
金シテ其當リ
ヲ擔保スル者

ニシテ博奕ノ類ナリ

「クローチン」
「ロトレイ」ハ五本ノ的ヲ定ル富ナリ而テ一定ノ高キ懸金ヲ出サシメ貧民ヲ加入セシメサルモノナリ

「カラッセン」
「トレイ」ハ一定ノ懸ノ員數ト一定ノ的懸ノ員數トヲ定メ其當リ金ヲ數カラス

度ニ抽籤シ抽籤ノ期日ニハ番號車ヨリ富票ノ番號ヲ抽キ富車ヨリハ番號車ヨリ抽キタル懸ノ當リ金ヲ抽クヘシ番號車ヨリハ一切ノ番號

僥倖ハ數富ヨリハ甚々多ク且ツ速カニ落著スヘシ

又其價銀高價ナレハ下等人民ハ之ヲ買フコトヲ得ス又人心ヲ迷惑セ

シムヘキコトナシ其設立法及ヒ趣向ハ大藏卿ヨリ之ヲ公告スヘシ

第三條 分等富ハ今日ノ情態ニ應シテ其趣向ヲ改メ或時ハ五籤富ト

交々興行シ又或ル時ハ同時ニ興行スルコトアリ

大藏卿ハ其意見ヲ以テ再ヒ其抽籤ヲ始ムヘキ期日ヲ定メ且改正シ

タル趣向ヲ公告スヘシ

第四條 土地ヲ賭スル願書ヲ屢々差出セシコトアリ一体所有者ノ土地

ヲ賭スルコトヲ欲スルコトハ皆知ル所ナリ

朕ニ於テハ一人ニ之ヲ許シ餘人ニ之ヲ許サ、ルコトアルカ如キ不公

平ナルコトナカラシメンカ爲メ大藏卿内務卿司法卿ヲシテ公告スル

規則ヲ以テ一般ニ之ヲ許サント欲ス

土地ヲ賭スル外ニ千七百九十四年六月廿日ノ布告第十條及ヒ其布

告ニ引用シタル普國法律全書モ亦其効ヲ有スヘシ

第五條 舊來ノ設立法ニ於テ千七百九十四年六月廿日ノ布告第十二

條ニ因リ抽籤ノ時國內ニテ誕生シタル女子五名ヲ雇ヒ富車ヨリ番

號ヲ抽出スルニ付キ五十「ターレル」ヲ給スルモノハ五籤富ノ趣向

ニ因テ之ヲ定ムヘシ

第六條 舊來ノ富籤總監ハ富籤局ニ合併シ之ヲ富籤本局ト稱スヘシ

此局ニ於テ五籤富及ヒ分等富ヲ管理スヘシ

土地ノ賭博ニ係ル布告ヲ以テ此局ニ於テ之ヲ管理スル方法ヲ定ム

ヘシ

富籤ニ關スル布告

ヲ抽クニ非ス止タ當リ金ノ在ル分ノミヲ抽クナリ當リ金ノアル分ノ番號ヲ抽キタル後ハ其餘リタル票ハ都テ不的懸ノモノトス抽籤ハ毎年二度之ヲ爲シ通常一度ノ富ヲ四等ニ分チ其分チ方ハ最後ノ等級ニ最多ノ當リ金ヲ定メ何人ニテモ富ニ加入スル者ヲシテ最初ノ等級ヨリ最後ノ等級マテ加入セシムル趣向ナリ

政府ノ富ヨリ得ル利益ハ百分ノ八ヨリ十分ノ二至ル今日ハ政府ニ

ヲ發行スル富
ハ止ターカラ
ツセシロトレ
イフミナリ

第七條 印刷シタル趣向書ハ則チ富懸金取立人ニ對スル布達ナリト
ス

大藏内務司法卿ヨリノ布告ハ富籤本局及ヒ其所屬ノ取立人ノ權利
義務ヲ定ムル法律ナリトス

普國法律全書ハ此布告ヲ補助スルノ力ヲ有スヘシ

第八條 富籤出納本局ハ前條ノ趣向書ニ因リ富籤本局ヨリ任シタル
取立人ノ作りタル五籤富ノ票及ヒ分等富ノ票ノ趣向書ニ因テ的籤
シタル金額ノ責ヲ負フヘシ然レモ下等取立人ノ作りタル富票ノ責
ヲ負ハス

第九條 五籤富及ヒ分等富ノ票ハ無記名ナリトス故ニ其的籤ノ金額
ハ別ニ認可ナクトモ其票ヲ發行シタル取立人ヨリ之ヲ其現所有者ニ

交付スヘシ又其金額ヲ差押フルコトヲ得ス

第十條 富懸金ノ延納ニ付普國法律全書第一篇第十一章第五百五十
八條ニ於テ例外ヲ許シタル者ハ五籤富及ヒ分等富ニ適用スヘク又
取立人ハ延納者ニ對シ訴ヲ爲スコトヲ得其土地ヲ賭スルモ亦之
ヲ適用スヘシ

第十一條 五籤富及ヒ分等富ノ抽籤期日ハ富籤本局ヨリ之ヲ定ムヘ
シ時トシテハ其期日ヲ延期スルコトヲ得レモ之カ爲メ懸金者ニ損害
ノ償ヲ爲スニ及ハス

第十二條 富籤出納本局ハ他ノ出納局ニ等シク取立人及ヒ其他ノ官
吏ノ財産及ヒ富籤本局ト契約ヲ結ヒタル者ノ財産ニ對シ出納局ノ
權利ヲ有スヘシ

朕ハ行政官署及ヒ臣下ニ此布告ヲ遵奉センコトヲ諭ス且朕自カラ手署シ御璽ヲ捺セシム

千八百十六年十二月七日ノ布告

普國法律全書第一篇第二章第五百四十七條ニ於テ公ノ富籤及ヒ其類似ノ業ヲ營ムニハ政府ノ許可ヲ受ケヘシ且第二篇第二十章第二百四十八條第二百四十九條ニ於テ政府ノ許可ヲ受ケサル起業者及ヒ外國ノ富籤ニ加入スル者ニ對シ其罰則ヲ定メタリ其罰則ハ千七百九十四年一月廿日ノ布告第十條ニ於テ再ヒ之ヲ定メタリ

然レモ朕ハ規則ニ背キ政府ノ許可ヲ得サル外國ノ富籤ニ加入シタル者ノ漸々増加シ且詐術ヲ以テ之ヲ弘メントスルコトヲ聞知シタリ故ニ朕ハ國內ニ此布告ヲ發シ政府ノ許可ヲ受ケサル富籤及ヒ其類似ノ業

及ヒ外國ノ富籤ニ加入スルコト特ニ其出金ヲ勸ムルコトヲ禁シタル舊來ノ布告ヲ更ニ改良スルコト左ノ如シ

第一條 政府ノ許可ヲ受ケサル外國ノ富籤ニ加入シタル者ハ自カラ好テ加入シタルト否トヲ問ハス又已ニ懸金ヲ拂ヒタルト否ニ拘ハラズ其出金ヲ取上ケタル上票一枚ニ付キ二百「ターレル」ノ罰金ニ處スヘシ又外國ノ富票ヲ受ケ二十四時内ニ住所ノ警察官署ニ之ヲ差出シ燒棄セシメサルモノハ外國ノ富籤ニ加入セシ者ト認定シ直ニ以上ノ刑ニ處スヘシ

第二條 政府ノ許可ヲ受ケサル外國ノ富票ヲ賣捌ク者又ハ賣捌世話人ハ利益ヲ得ルト否トニ拘ハラズ富票一枚ニ付キ二百「ターレル」ノ罰金ニ處スヘシ

富籤ニ關スル布告

第三條 州内ニ派出セシメ窃カニ外國ノ富票ヲ賣捌カシメタル周旋人ハ第二條ノ刑ニ處スヘシ又無力ナルキハ一年以上二年以下ノ徒刑ニ處スヘシ

第四條 政府ノ許可ヲ得スシテ富籤又ハ其類似ノ業又ハ動産不動産ノ賭博ヲ發起スル者ハ其懸金ノ多少ヲ問ハス又其物件ノ價格ニ拘ハラス三百「ターレル」ノ罰金ニ處シ且是等ノモノニ因テ得タル利益ノ倍金ヲ其地ノ窮民救助出納局ニ出サシムヘシ

第五條 第一條ヨリ第四條ニ定メタル罰金ノ半額ハ告發者ニ給與スヘシ

第六條 千八百二十年ノ始メマテ成立スヘキ伯林ト「ハノーフル」トノ間ノ富籤條約ハ此布告ニ因テ廢セラル、コナシ其條約ニ因レハ

「エルベ川及ヒライン川間ノ住民ハ「ハノーフル」官立富籤ニ加入スルコトヲ得然レモ其住民ニシテ其富票ヲ賣捌キ又ハ其世話ヲ爲ス者ハ第二條ニ掲ケタル罰金ニ處スヘシ

朕ハ臣下特ニ司法官署及ヒ警察官署ニ此布告ヲ遵奉センコトヲ諭ス千八百四十一年七月廿一日ノ布告

租稅ヲ減セシトスル目的アルヲ以テ會計豫算ヨリ富籤ノ收入ヲ全ク除去セント欲スレトモ能ハサレハ朕ハ本年本月八日ニ州會ヨリ内閣ニ差出シタル建言書ニ因リ成ルヘク有力者ノミニ限り富籤ニ加ハラシメ且舊來ノ方法ニ弊害アルモノヲ改正セント欲ス故ニ左ノ條々ヲ確定セリ

第一條 千八百十年五月廿八日ノ布告第十條ニ於テ懸金取立人ヨリ

延納金ヲ訴へ得ルモノハ千八百四十二年一月一日ヨリ之ヲ廢ス以後ハ普國法律全書第一篇第十一章第五百五十八條ニ因リ取立人及ヒ下等取立人ヨリ延納金ヲ訴フルコトヲ得スシテ止タ的籤ノ金額ヲ以テ之ヲ差引クコトヲ得ルノミ

此規則ハ普國法律全書ノ行ハレサル地方ニ於テモ亦同期日ヨリ之ヲ適用スヘシ

第二條 下等取立人ハ次第ニ之ヲ廢スヘシ故ニ其死去又ハ退職等アルモ富籤本局ヨリ其後任ヲ命スヘカラス又取立人ノ員數ハ之ヲ減スヘシ特ニ小ナル郷又ハ郡ニ於テハ後任ヲ命スヘカラス然レモ後任ヲ命スヘキハ何時タリトモ其任ヲ解クヘキ契約ヲ以テ之ヲ任スヘシ

第三條 舊來ノ規則ニ於テ取立人及ヒ下等取立人ヨリ言語又ハ文書ヲ以テ富籤ニ加入センコトヲ勸メ又ハ任命前ニ自カラ其票ヲ買フコトヲ勸メ若クハ書面ニ添ヘテ之ヲ送達シ又ハ他人ヲシテ販賣送達セシムルコトヲ禁シタル者ハ後來モ亦嚴ニ之ヲ遵奉セシメ且取立人ヲシテ下等取立人ノ代リニ他ノ世話人ヲ用ヒシムヘカラス
此規則ニ背キタル取立人下等取立人ハ直ニ免職スヘシ

第四條 富票ノ員數ハ次第ニ減シ其懸金ハ之ヲ増シ之レニ因テ作リタル趣向書ハ朕ノ允許ヲ受クヘシ

第五條 汝ハ 大藏卿 此布告ヲ公告シ且其施行ヲ命スヘシ

千八百七十八年十月廿一日ノ社會黨撲滅規則

第一條 社會黨ノ主義ニ因テ國家又ハ社會ノ秩序ヲ變亂スルコトヲ目的トスル結社ハ之ヲ禁止ス

國家又ハ社會ノ秩序ヲ變亂セントスル主義アルカ爲メ國家ノ靜謐特ニ社會ノ和熟ヲ破ラントスルノ徵候アル結社モ亦同シ

如何ナル組合ト雖モ如此目的アルモノハ之ヲ此(規則ノ)結社ト看做スヘシ

第二條 登記營業組合ニハ第一條第二項ノ場合ニ於テ千八百六十八

年七月八日ノ起業勸工組合規則第三十五條ヲ適用スヘシ
第三十五條ニ於テ法律ニ背キ公益ヲ害スルカ又ハ此規則ニ定メタルヨリ他ノ目的ヲ主トスルルハ解社セシメラルハコトヲ得但之カ爲メ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

社會黨撲滅規則

此場合ニ於ケル解社ハ上等行政官署ノ申立ニ因リ裁判ヲ以テ爲ス
ヘシ管轄裁判所トハ社ノ所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ナリトス
其判決ハ管轄裁判所ヨリ組合登記簿ヲ備ヘタル裁判所ニ通知シテ
第三十六條ニ從テ登記公告セシムヘシ

登記貯蓄所ニハ第一條第一項ニ於テ千八百七十六年四月七日ノ登

記貯蓄所規則第二十九條ヲ適用スヘシ

第二十九條 貯蓄所ハ左ノ場合ニ於テ上等行政官署ヨリ禁止セラ
ルヘシ

一社員四分ノ一以上出金ヲ怠リ監督官署ノ督促ヲ受クルモ仍ホ共
出金ヲ取立ザルガ又ハ其社員ノ退社セシメサルハ
二監督官署ノ督促ヲ受クルモ仍ホ貯蓄所ニ於テ満期ノ救助金ヲ拂
ハサルハ(争訟ナキモノ)

三總會ニ於テ此規則又ハ貯蓄所規則ニ背キタル決議ヲ爲シ監督官
署ヨリ之ヲ取消スヲ命シタルモ期限内ニ取消サルハ

四此規則ノ第六條ニ背キテ社員ニ義務ヲ負擔セシムルカ又ハ第十
三條ニ背テ出金ヲ爲サシメ又ハ貯蓄所ノ資本ヲ費用シタルハ

五第二十六條ノ場合ニ於テ上等行政官署ヨリ定メタル期限内ニ貯
蓄所ノ義務權利ノ平均ヲ爲サルハ

六此規則ニ定メサル事由ニ因テ社員ヲ退社セシメタルハ

行政官署ノ處分ニ對シテハ故障ヲ爲スコヲ得其手續及ヒ官署ハ

營業規則第廿條第廿一條ニ從フヘシ「エルザス」ロートリンゲン」

ニ於テハ營業規則ノ代リニ其地ニ行ハル、行政裁判規則ニ從フ

ヘシ

家資分散ノ公告ニ因テハ法律ニ於テ貯蓄所ヲ禁止シタルモノト

ス

第三條 社則ニ因リ社員ノ救助ヲ目的トスル獨立ノ貯蓄所(登記セ

サル)ハ第一條第二項ノ場合ニ於テ直ニ之ヲ禁止セスシテ政府ノ

特別監督ニ付スヘシ

前項ニ掲ケタル如キ數箇ノ貯蓄所合併シテ一組合ト爲リ其中ニ第

一條第二項ノ徵候アル者ハ其貯蓄所ヲ組合ヨリ退社セシメ之ヲ監

督ニ付スルヲ得

支社ニ前項ノ徵候アル者ハ亦其支社ヲ監督ニ付スヘシ

第四條 監督ヲ爲ス官署ハ左ニ掲クル權利ヲ有スヘシ

- 一 社ノ會議席ニ加ハルコト
- 二 總會ヲ召集シテ之ヲ總括スルコト
- 三 簿冊文書及ヒ現金ヲ調査シ并ニ社ノ關係ニ付キ詳細ノ辨明ヲ求ムルコト

四 第一條第二項ノ目的ヲ達セシメントスル決議ノ施行ヲ禁スル

コト

五 社長又ハ其他ノ役員ノ事務ヲ至當ト認メタル人ニ托スルコト

六 貯蓄所ノ出納局ヲ差押ヘテ管理スルコト

第五條 總會社長其他ノ役員監督官署ノ權限ヲ以テ發シタル命令ニ

背クカ又ハ監督ニ付シタル後ト雖モ(以前ハ固ヨリノコナリ)第一

條第二項ノ徵候アルキハ其社ヲ禁止スルコトヲ得

第六條 社ヲ禁止シ及ヒ監督ヲ命スル管轄官署ハ國內警察官署ナリ

トス外國人ノ組合ヲ禁止スル權ハ獨逸宰相ニアリトス

其禁止ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ國內警察官署ヨリ發スル禁止

ハ此外ニ其地ノ公告紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

其禁止ハ獨逸國內ニ効力ヲ有シ其支社及ヒ名稱ヲ改メタル新設ノ

社ニモ及フヘシ

第七條 社ヲ禁止シタルキハ其出納局并ニ其目的ニ供スヘキ物件ヲ

官署ヨリ差押フヘシ

其禁止最終ノ裁定ヲ經タルハ國內警察官署ハ行政官署ヲ定メ社
ノ決算ヲ托スヘキ人ヲ撰ヒ且總括セシムヘシ又決算人ノ氏名ヲモ
公告セシムヘシ

法律又ハ社則ニ定メタル總會ノ決議ニ代ルモノハ行政官署ノ決議
ナリトス

決算ヲ終リタル社ノ財産ハ社則又ハ法律ニ從テ之ヲ支用スヘシ但
他人及ヒ社員ノ權利ヲ害スルコナシ

禁止ノ最終裁定ヲ得タル月日ヲ以テ解社又ハ閉社ノ時期トスヘシ
官署ノ命令ニ對シテハ監督官署ニ故障ヲ申立ルコヲ得ルノミ

第八條 國內警察官署ノ禁止并ニ監督ノ命令ハ理由ヲ付シタル命令
書ヲ以テ社長ニ通知スヘシ

但國內ニ滞在スルモ限ル其命令ニ對シテハ社長ヨリ故障ヲ申立
ツルコヲ得(第二十六條)

其故障ハ命令書ヲ送達シタル後一週間内ニ之ヲ發シタル官署ニ爲
スヘシ

故障ハ命令ノ効力ヲ停止セス

第九條 社會黨ノ趣義ヲ以テ國家又ハ社會ノ秩序ヲ變亂スル徵候ア
ル集會ハ之ヲ解散セシムヘシ

前項ノ目的ヲ達セシメントスル實跡アル集會ハ之ヲ禁止スヘシ
祭禮モ亦集會ト同視スヘシ

第十條 集會ヲ禁止及ヒ解散セシムル管轄官署ハ警察官署ナリトス
故障ハ監督官署ニ之ヲ爲スコヲ得ルノミ

第十一條 社會黨ノ國家又ハ社會ノ秩序ヲ變亂スル主義ヲ以テ國家ノ安寧特ニ社會ノ和熟ヲ破ルヘキ徵候アル印刷物ハ之ヲ禁止スヘシ

定期印刷物ニ在テハ此規則ニ因リ一號ヲ禁止シタル後ハ其後ノ發行モ亦禁止スルコトヲ得

第十二條 印刷物ヲ禁止スル管轄官署ハ國內警察官署ナリトス内國ニ發行スル定期印刷物ニアツテハ發行地ノ國內警察官署ナリトス外國ニ發行スル定期印刷物ノ販賣公布ヲ禁スル權ハ獨逸宰相ナリトス

其禁止ハ第六條第二項ノ方法ヲ以テ公告スヘシ其効力ハ獨逸全國ニ及フモノトス

第十三條 國內警察官署ノ印刷物ノ禁止ハ出版人又ハ編纂人未定期印刷物ノ禁止ハ仍ホ内國ニ在ル著述人ニ理由ヲ付シタル命令書ヲ以テ通知スヘシ

其命令ニ對シテハ出版人又ハ編纂人及ヒ著述人ヨリ故障ヲ申立ルコトヲ得(第二十六條)

其故障ハ命令書ヲ送達シタル後一週間内ニ之ヲ發シタル官署ニ爲スヘシ

故障ハ命令ノ効力ヲ停止セス

第十四條 印刷物ノ發行ヲ禁止シタルキハ其印刷物ヲ發見シタル所ニ於テ之ヲ差押フヘシ複寫ニ供スル版木モ亦之ヲ差押フヘシ活版ノミノ印刷物ニ在テハ關係者ノ申立ニ依リ其活版ヲ差押フル代リ

ニ活字ヲ解破セシムヘシ差押ヘタル印刷物版木ハ禁止ノ最終裁定
ヲ經タル後之ヲ破棄スヘシ

故障ハ監督官署ニ爲スコヲ得ルノミ

第十五條 警察官署ハ第十一條ノ印刷物及ヒ其複寫ニ供スル版木ヲ
禁止ノ命アル前ト雖モ假リニ差押フルコヲ得其差押ヘタル印刷物
ハ二十四時間ニ國內警察官署ニ差出スヘシ國內警察官署ハ速カニ
差押ヲ取消スカ又ハ一週間内ニ印刷物ヲ禁止スヘシ其期限内ニ禁
止セサルモハ自カラ差押ノ効ヲ失ヒ印刷物及ヒ版木ハ之ヲ還付ス
ヘシ

第十六條 國家又ハ社會ノ秩序ヲ變亂セン社會黨ノ目的ヲ達セシメ
ンカ爲メノ贖金及ヒ其贖金ヲ集ムル公告ハ警察官ヨリ之ヲ禁スヘ

シ其禁止ハ之ヲ公告スヘシ

故障ハ監督官署ニ之ヲ爲スコヲ得ルノミ

第十七條 何人タリトモ禁止セラレタル社ノ(第六條)社員トナルカ
又ハ其社ヲ補助スル者ハ五百マルク以下ノ罰金又ハ三ヶ月以下
ノ禁獄ニ處スヘシ

又禁止セラレタル集會(第九條)ニ加ハルカ又ハ警察官ヨリ其解散
ヲ命シタルモ仍ホ退散セサル者モ亦同シ

其社又ハ集會ノ會頭幹事演說者金銀取立人又ハ集會センコヲ求ム
ル者ハ一ヶ月以上一ヶ年以下ノ禁獄ニ處スヘシ

第十八條 何人タリトモ禁セラレタル社又ハ集會ニ會議席ヲ供シタ
ル者ハ一ヶ月以上一年以下ノ禁獄ニ處スヘシ

第十九條 何人タリトモ禁セラレタル印刷物(第十一條第十二條)又ハ假リニ差押ヘラレタル印刷物(第十五條)ヲ販賣公布シ又ハ發行ヲ繼續シ又ハ複寫スル者ハ千「マルク」以下ノ罰金又ハ六ヶ月已下ノ禁獄ニ處スヘシ

第二十條 何人タリトモ第十六條ノ禁止ニ背ク者ハ五百「マルク」以下ノ罰金又ハ三ヶ月以下ノ禁獄ニ處スヘシ其他贖金又ハ公告ニ因リ得タル金額又ハ有價物ハ贖金シタル地ノ貧窮民救助貯蓄所ニ没收スヘシ

第二十一條 禁止ヲ知ラストモ官報ヲ以テ公告シタル後(第六條第十二條)第十七條第十八條第十九條ニ掲ケタル所犯アル者ハ百五十「マルク」已下ノ罰金又ハ拘留ニ處スヘシ

禁止ヲ公告シタル後ニ第十六條ニ背キタル者モ亦前項ニ同シ第二十條ノ沒收モ亦本條ニ適用スヘシ

第二十二條 第一條第二項ノ目的ヲ廣ムルヲ以テ業トスル者第十七條ヨリ第二十條マテノ刑ニ處セラレタル者ハ其刑ノ言渡ト共ニ住居ノ地ヲ限ルヲ得

其判決ニ因リ國內警察官署ハ犯人ニ一定ノ地方ニ住居スルヲ禁スルヲ得但六ヶ月已來住居地ニ住居セサル者ニ非サレハ其住居地ヲ退去セシムルヲ得又外國人ハ國內警察官署ヨリ獨逸國外ニ追放スルヲ得

故障ハ監督官署ニ爲スヲ得ルノミ

此規則ニ背クモノハ一ヶ月以上一年已下ノ禁獄ニ處スヘシ

第二十三條 第二十二條第一項ニ掲ケタル事由アル時ハ旅店酒舖燒
酎販賣人印刷人書肆貸本屋書籍縦覽所ニ對シ其刑ト共ニ其營業ヲ
禁スルコトヲ得

第二十四條 第一條第二項ノ目的ヲ達セシムルヲ業トスル者又ハ此
規則ニ從ヒ刑ニ處セラレタル者ハ國內警察官署ヨリ印刷物ノ販賣
權又ハ公布スルノ權并ニ印刷物行商ノ權ヲ剝奪スルコトヲ得
故障ハ監督官署ニ爲スコトヲ得ルノミ

第二十五條 何人タリトモ第二十三條ノ判決又ハ第二十四條ノ命令
ニ背キタル者ハ千「マルク」已下ノ罰金又ハ六ヶ月以下ノ禁獄ニ處
スヘシ

第二十六條 第八條第十三條ノ故障ヲ判決スル爲メニ委員ヲ設クハ

シ連邦委員局ハ其内ヨリ四人獨逸國又ハ連邦ノ上等裁判所ヨリ五
名ヲ選任スヘシ此五名ノ選舉期限ハ此規則ノ期限内ニシテ裁判官
在職タルモノトス

獨逸帝ハ委員長及ヒ委員中ヨリ其代理人ヲ任スヘシ

第二十七條 委員ハ五名ニテ其裁定ヲ爲スヘシ其内少クモ三名ハ裁
判官タルヘシ故障ノ裁定ヲ爲ス前ニ言語又ハ書面ヲ以テ關係者ヨ
リ理由ヲ申出テシムヘシ委員ハ十分ニ證據物ヲ集取スヘシ之レカ
爲メ特ニ證人及ヒ鑑定人ヲ糾問シ又ハ獨逸國若クハ連邦ノ官署ニ
囑托シ其證據ヲ集取スルコトヲ得證人又ハ鑑定人トナルヘキ義務及
ヒ呼出ニ應セサルルノ罰金ハ委員又ハ囑托ヲ受ケタル官署所在ノ
地ニ行ハル、訴訟法ニ從フヘシ其裁定ハ其心證ニ因テ爲スヘク且

終審ナリトス

其他事務章程ハ委員ニ於テ之ヲ作り連邦委員局ノ認可ヲ受クヘシ

第廿八條 第一條第二項ノ目的ニ因リ社會ノ安寧ヲ害スル恐レアル

地方ニ於テハ連邦ノ中央官署ヨリ連邦委員局ノ許可ヲ得テ長ク凡

一年ノ期限ヲ以テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得但連邦ノ法律ニ於テ其

權ナキ所ニ限ル

一 集會ハ警察官署ノ許可アルニ非サレハ爲スコト能ハサル事但獨

逸又ハ連邦ノ議員選舉會ハ此限ニ在ラス

二 印刷物ヲ道路明キ地其他公然ノ場所ニ陳列スヘカラサル事

三 社會ノ安寧秩序ヲ害スル恐アル者ニ公告スル場所ニ滯留ヲ禁

スルコト

四 兵器ヲ所有携帶輸入及ヒ販賣ヲ禁シ又ハ制限スルコト

各項ニ從テ命令ヲ發シタル所ハ直ニ又ハ次會ノ獨逸下院ニ其事由

ヲ差出スヘシ

其命令ハ官報及ヒ國內警察官用ノ公告紙ヲ以テ公告スヘシ

何人タリトモ其命令又ハ之ニ因テ發シタル命令ヲ知りナカラ又ハ

公告シタル後之ニ背キタルモノハ千「マルク」以下ノ罰金又ハ拘留

又ハ六ヶ月已下ノ禁獄ニ處スヘシ

第廿九條 國內警察官署及ヒ警察官署トハ連邦ニ於ケル如何ナル官

署ヲ指スカハ其國ノ中央官署ヨリ公告スヘシ

第三十條 此規則ハ之ヲ頒布シタル日ヨリ効力ヲ有シ千八百八十

一年三月三十一日ニ至ルマテ其効アリトス

千八百四十八年二月二十八日頒布

堤防規則

從來ノ堤防規則ハ完全ナラサルヲ以テ内閣ノ申立ニ因リ身分會議ヲ
スタンヂ
聞キタル後參議院ノ意見ヲ聞キ全國ノ爲メ左ノ條々ヲ確定セリ

第一章 堤防組合ニ屬セサル堤防

第一條 臨時川岸ヨリ溢レ出ル水ヲ阻ムル堤防又ハ之ニ似タル土手
ノ最高ノ出水ヲ防ク爲メナル長大ノモノハ縣廳（現今ハ縣輔佐官ノ
ナリ以下倣之）
許可ナケレハ新ニ設ケ又ハ場所ヲ換ヘ又ハ更ニ高クシ又ハ其全部
及ヒ一部ヲ毀ツコトヲ得ス

之ニ背ク者ハ警察官署ヨリ五十「ターレル」以下ノ罰金ニ處セラル、
ノミナラス場合ニ因テハ其堤防ヲ従前ノ如ク改造セシメラルヘシ

危急ノ場合ニ於テ臨時之ヲ防ク爲メノ處分ハ此限ニ在ラス許可ヲ
ニ及
ハス

第二條 縣廳ニ於テ必用ナル場合ト認メタル時ハ許可ヲ爲ス前ニ關
係者ヲ聞糺スヘシ

其關係者ノ明カナラサル時ハ縣廳ハ期限ヲ定メ故障ヲ申出ヘク若
シ其期限内ニ申出サレハ其後故障ヲ申出ルコトヲ得サルヲ公告スル
コトヲ得

其公告ハ二度縣ノ公告紙ヲ以テ爲シ且之ニ關係アル團結ニ慣例ニ
從テ公告スヘシ

第三條 縣廳ノ見込ニ從ヒ出水ノ落ち場ヲ減スヘキ時ハ新築又ハ場
所ヲ換ヘ又更ニ高クスル許可ヲ拒ムヘシ

第四條 數箇ノ所有地ヲ防護スル爲メ現ニ設ケタル堤防ノ全ク崩壞
スルカ又ハ一部崩壞シ又ハ天災ニ因テ破壞シタル時ハ縣廳ヨリ指
圖シテ従前ノ長サト高サトニ改造セシムルコトヲ得
又縣廳ハ從來ノ姿ニ保存スルニ必用ナル處分ヲ命スル權アリ

第五條 縣廳ハ堤防ノ保存又ハ改造スヘキ義務者ニ對シ脅迫法ヲ用
ヒテ強テ爲サシムル權アリ

第六條 堤防保存又ハ改造スヘキ義務者ノ明カナラサル時又ハ其義
務ニ付キ争ヒアル時ハ縣廳ハ假リニ從來保存ヲ爲シ來リタル者ヲ
シテ其義務ヲ盡サシムルヲ得其者ノ明カナラサルカ又ハ無力ナル
時ハ堤防ニ因テ防護ヲ受クル土他所有者ト認メタル者ヨリ盡サシ
ムルヲ得速カニ其土地所有者ヲ見出スコト能ハス且至急ヲ要スル時

ハ堤防ノ在ル地方ノ土地所有者一同ヨリシテ止ムヲ得サル義務ヲ盡クサシムルヲ得但其義務ハ所有者ノ團結ニ屬スルト否トヲ問ハス土地ノ情況ニ從テ割付クヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ縣廳ハ臨時ニ建築スヘキ者ト其出金分配法ヲ裁定スヘシ

其裁定ニ對シテハ大藏省ニ現今ハ農務卿ナリ故障ヲ申立ルヲ得但其故障ハ裁定書ヲ送達シタル翌日ヨリ四週間内ニ縣廳ニ申出テ且理由ヲ述フヘシ此期限内ニ申出タルノミナルキハ直チニ其事件ヲ大藏省ニ送達スヘシ其後理由ヲ述ヘタル者ハ之ヲ取上ケス故障ヲ申立ルモ裁定ノ執行ヲ止メス

第八條 堤防ノ保存又ハ改造ヲ命セラレタル者ハ其後眞ノ義務者ニ

對シ通常裁判所ニ訴出テ其出金又ハ力役ノ價ヲ求ムルヲ得

第九條 縣廳ヨリ命シタル出金及ヒ力役ハ公ケノ義務ト同等ニ看做スヘシ且他人ニ對シテ先取ノ權アリ

第十條 假リニ建築セシムヘキ場合ニ於テハ義務者ノ明カナラサルカ故ニ後來義務者ヲ定メン第六條縣廳ハ關係者ノ申立ナクモ後來ノ義務ヲ定メンカ爲メ第七條堤防組合ヲ作ラシムル手續ニ着手スル權アリ第十一條以下

檢査ヲ遂ゲタル後組合ヲ設クルノ必用ナラストシタルキハ縣廳ハ後來堤防ヲ保存センヲ求ムル權ナシ又關係者ニ其旨必用ナラサルヲ通知スヘシ

義務者ニテ其義務ヲ承諾スルカ又ハ裁判ヲ經テ其義務者ヲ決定シ且有力ナルキハ組合ヲ作ル手續縣廳ヲ始ルニ及ハス

第二章 堤防組合

第十一條 一般ノ危害ヲ除キ又ハ耕作ヲ進メンカ爲メ堤防及ヒ之ニ屬スル豫防及ヒ田畑改良ノ仕掛ヲ設ケ又ハ廣大ニシ又ハ保存スヘキ片ハ出水ノ害ヲ受クヘキ土地所有者ヲ合併シ國王ノ許可ヲ得テ其仕掛ヲ設ケ且保存スル堤防組合ヲ設ケシムヘシ但其組合ヲ作ラシムル前ニ關係者一同ヲ聞糺スヘシ場合ニ因テハ第二條ニ從テ公告スヘシ其後故障ヲ申出ルコトヲ得サルコト云々ナリ

第十二條 前條ノ組合就中左ノ場合ニ於テ作ラシムヘシ

- 一 是迄堤防ノナキ低キ土地所有者ヲシテ堤防且田畑改良仕掛ヲ新築保存セシムヘキ片
- 二 是迄或ル關係者間ニテ新築保存ヲ爲シ來リタル堤防及ヒ田畑

改良仕掛ヲ改正保存スヘキ義務ヲ其低キ土地所有者ニ負ハシムヘキ片

三 如此堤防及ヒ其防護ヲ受クル土地所有者ヲ已ニ成立タル堤防組合ニ入ラシムヘキ片

四 已ニ成立タル組合ノ堤防及ヒ田畑改良仕掛ヲ廣メテ未タ組合ニ入ラサル土地ニ及スヘキ片

第十三條 同シク低キ土地ニシテ同ク利害ヲ共ニスル土地所有者ハ通常一組合ニ合併スヘシ然レモ僅少ノ費用ヲ以テ自カラ防護ヲ爲シ得ヘキ土地ハ其組合ニ加ハラサルコトヲ得

第十四條 堤防ヲ保存スルコトニ付キ同ク利益ヲ共ニスル組合ハ國王ノ許可ヲ以テ一組ニ合併セシメ又ハ堤防ノ管理ヲ合併セシメ且其

崩頽及ヒ其他臨時ノ損壞ヲ互ニ救助スヘキ義務ヲ負擔セシムルヲ得

第十五條 組合ノ爲メ國王ヨリ許可スヘキ組合規則ヲ作ルヘシ其規則ニハ詳細ニ左ノ箇條ヲ掲クヘシ

- 一 目的ノ範圍
- 二 堤防ノ義務又ハ防護及ヒ田畑改良仕掛ヲ新築保存スルニ必用ナル出金及ヒ力役ノ方法及ヒ分配
- 三 土地所有者ニテ受クヘキ所有權ノ制限
- 四 政府ノ官署ニ委任スヘキ監督ノ權
- 五 堤防管理掛ノ編制及ヒ權利義務
- 六 社員自カラ又ハ代理人ヲ以テ堤防事件ノ管理ニ加ハル權

七 堤防ヲ保存スルコト能ハサル所ノ處分

第十六條 堤防ノ義務ハ(第十五條第二)堤防及ヒ田畑改良仕掛ニ因リ防護改良ヲ受ケタル收入アル土地及ヒ建築地ニテ負擔スヘシ但一般ノ義務ヲ負ハサルカ又ハ特權アルモノト雖モ組合規則ニ定メタル割合ニ從テ同等ニ其義務ヲ負フヘシ其割合ハ通常被ラサル損害ト得ヘキ利益ニ從テ之ヲ定ムヘシ然レモ別段ノ理由アル所ハ他ノ割合法ヲ用フルコトヲ得

後來ハ如何ナル場合ニテモ堤防ノ義務ヲ免カル、コトヲ得ス假令期滿得免ノ場合ト雖モ亦然リ

第十七條 堤防ノ義務ハ從來別段ノ契約等ニ因テ別ニ割付法ヲ定メタルモ又ハ全ク或ル社員ニ其義務ヲ負ハシムヘキ時ト雖モ前條ノ

規則ニ從テ總社員間ニ割付クヘシ

其場合ニ於テハ契約等ノ權利者ハ組合ヨリ負ハシメタル義務ニ付

キ契約ノ義務者ニ對シ其償ヲ求ムルヲ得但組合ヲ設クル前ヨリ從

前ノ仕掛ヲ改正保存スヘキ限ニ限ルヘシ

償金ヲ出スヘキ義務ハ相當ノ金額ヲ以テ之ヲ解クヲ得其義務ハ組合ノ成

立ツル早ク求メテ解クヲ得

第十八條 組合ニ對シ盡スヘキ義務ハ土地ニ附着スル者ニシテ之ヲ

土地ヨリ離スコヲ得ス又公ケノ義務ト同シク看做スヘク且他人ニ

對シ先取ノ權アリ

第十九條 堤防ノ義務ヲ盡サシメンカ爲メ堤防管理掛ハ公ケノ義務

ヲ盡サシムルト等シク執行法ヲ用フルヲ得又其執行ハ義務ア

ル土地ノ借受人又ハ其他ノ使用者ニ對シ之ヲ爲スコヲ得但其後眞
ノ義務者ニ對シ訴ヲ爲スコヲ得

第二十條 堤防内ノ土地所有者ハ官署ノ命令ニ因リ防護及ヒ田畑改

良ニ必用ナル土地ヲ償金ヲ受ケテ組合ニ讓渡ス義務アリ又其仕掛

ニ必用ナル沙石滑土等ヲ掘取ル爲ニ受ケタル損害ノ償ノミヲ受ケ

テ之ヲ給與スヘシ損害ノ償ヲ評定スルニハ其土地ノ實價ノ外ハ之

ヲ算用ス可カラス

第二十一條 組合ニ屬セサル堤防内ノ土地所有者又ハ川岸又ハ堤防

ノ近傍又ハ組合ニ屬スル溝及ヒ水閘ノ近傍ニ在ル土地所有者ニテ

受クヘキ所有權ノ制限ハ組合規則中ニ詳細ニ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 第十六條ニ從テ土地ニ義務ノ屬スルヤ否又ハ其義務ノ

割付方ニ付キ争ヲ生シタルキハ行政官署ニテ之ヲ裁定スヘシ通常
裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十三條 此規則ヲ頒布スルキ已ニ發シタル堤防規則及ヒ組合規
則ハ其効ヲ有スルト雖モ必用ナル分ハ改正スヘシ改正及ヒ廢止ハ
止タ國王ノ許可ヲ以テ之ヲ爲スノミ

第三章 通則

第二十四條 縣廳ハ堤防ノ水ニ對シ抗抵力ヲ減スヘキ(例ヘハ植木ヲ
培殖スルノ類)
使用ヲ制限シ又ハ全ク之ヲ禁スル權アリ之カ爲メ已ニ得タル權ヲ
制限スルカ又ハ失ハシメタルキハ堤防保存義務者ヨリシテ其權利
者ニ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第二十五條 出水ニ對シ低キ地ヲ防護スル爲メ(組合ニ屬セ
サルモノ)堤防ヲ保

存スヘキハ危急ノ場合ニ於テハ警察官署ノ命令ニ因リ其害ヲ被ム
ルヘキハ及ヒ場合ニ因テハ其近傍ノ住民ハ無償ニテ救濟ヲ爲シ且
必用ナル器具及ヒ運送器ヲ差出スヘシ

警察官署ハ必用ナル處分ハ直チニ執行法ヲ以テ爲サシムルヲ得又
其害ヲ防クニ必用ナル物件ハ其何レノ地ナルヲ問ハス之ヲ出サン
コトヲ求ムルヲ得其物件ハ其後義務者間ニ其價ヲ割付ケ且損害ヲ償
ハシムル約束ヲ以テ其所有者ヨリ之ヲ差出サシムヘシ但實價外ノ
價ハ之ヲ算用ス可カラス(組合ニ屬セサルカ爲メ警
察官ノ立入ヲ要スルナリ)

第二十六條 組合ニ屬スル堤防ハ前條ヲ適用ス可カラス但組合規則
ニ別ニ定メナキハ此限ニ在ラス

第二十七條 城寨ニ關係アル堤防又ハ田畑改良仕掛ヲ新築又ハ改造

スルニ付テハ千八百二十八年九月十日及ヒ三十日ノ城塞近傍ニ建
築ヲ爲シ又ハ地形ヲ變スル手續ニ付テノ規則第十二條ニ從フヘシ

第二十八條 都テ此規則ニ抵觸スル法律又ハ各地方ニ行ハル、布告
ハ廢止タルヘシ

水利規則 千八百六十七年
二月九日

第一章 水ノ經過ヲ妨ケサル爲メ水派ヲ維持スル事

第一條 已ニ現在スル溝及ヒ其他自然又ハ人工ノ私有水派ヲ浚ヘ及
ヒ保存スルコトハ契約等及ヒ地方規則慣習ニ因テ別ニ定メナケレハ
水岸所有者ニテ双方半ツ、擔任スヘシ但其義務ハ水ノ經過ヲ爲シ
且保存スルニ止マル可シ

第二條 警察官ハ(郡總代)義務者ノ怠慢ニ因リ他ノ土地又ハ仕掛ノ
所有者ヲ害シ又ハ近隣住民ノ健康ヲ害シタルハ直チニ泥ヲ浚ハ
ヒ保存セシムルコトヲ得

若シ關係者ニ於テ其義務ニ付キ争ノ生シタルハ裁判所ニテ判決
アルマテハ從來ノ例ニ從ヒ若シ例ノ明カナラサルハ水岸所有者

ニテ泥ヲ浚ヘ保存スヘシ郡總代ハ行政裁判ノ手續ヲ以テ終審ノ裁判ヲ爲スヘシ

第三條 從來各川岸所有者ノ力役ニ因テ川浚又ハ保存ヲ爲シ其土地ノ細カニ分レ又ハ其他ノ理由アリテ十分行届カサル所ニ於テハ郡總代ニ於テ關係者ノ意見ヲ聞キ規則ヲ發シテ其義務ヲ金額ニ定メ之ヲ從來ノ義務ニ因テ各關係者ニ割付クルヲ得

第二章 水堰仕掛ニ因テ生スル損害ヲ防ク規則

第四條 水堰仕掛ノ所有者ハ之ニ關スル者ノ申立ニ因リ其費用ヲ以テ標柱ヲ立ルヲ拒ム可カラス

第五條 標柱ハ郡總代ヨリ命シタル鑑定委員ニテ一切ノ關係者立會ノ上管轄裁判所ノ裁判官一人書記一人ノ面前ニテ立ツヘシ

裁判所委員ハ鑑定委員ノ指揮又ハ關係者ノ申立及ヒ其相當ナルヲ公正ナル書面ニ作ルヘシ其書面ハ管轄裁判所ニ差出スヘシ裁判所ハ郡總代及ヒ關係者ノ求メアレハ其寫ヲ交付スヘシ

第六條 其標柱ニハ最高ノ水面及ヒ申立人ノ求ニ因リ必用ナルト又夏ノ時間ノ水面ヲ明カニ記スヘシ又最高ノ水面ヲ其近傍ニアル動カス可カラサル物件ト比較シ其他水車ニ在テハ水閘ノ冠木ト比較シテ之ヲ調書ニ記スヘシ之ニ反シ航船ノ爲メ水堰仕掛所有者ニテ水面ヲ高く保ツ可キ義務アル場合ニ於テハ前ニ同ク最モ低キ水面ヲ標柱ニ記スヘシ

第七條 裁判判決ニ因ルカ又ハ關係者一同ノ協議ニ因テ水面ノ明カニ定リタルトハ之ニ從テ水面ヲ記スヘシ

第八條 關係者間ニ於テ契約(契約ノ有無)又ハ國王ノ特許(特許ノ有無)又ハ期滿免除ニ因テ水面ノ定リタルヤ否ニ付協議ヲ遂ケサルルハ關係者ヨリシテ通常裁判所ニ訴フルコトヲ得其訴ハ千八百四十九年七月二十一日布告三十七條ニ從フヘシ(急速裁判ヲ爲ス)

第九條 關係者ノ協議ニ因リ又ハ裁判判決ニ因リ(第八條)水面ヲ定ムル契約等ナキコトノ確定シタルハ郡總代ヨリ命シタル委員(第五條)ニテ其標柱ヲ立ヘシ之ヲ立ルニハ耕作ノ利益ト水ヲ堰ク權トヲ見計ヒ双方ニ害ヲ與ヘサル様ニ立ヘシ

若シ關係者間ニ於テ委員ノ決定ニ服セサルハ郡總代ニ訴フルコトヲ得レト通常裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

郡總代ノ判決ニ對シテハ之ヲ言渡シタル後二十一日内ニ縣行政裁

判所ニ控訴スルコトヲ得

第十條 第八條ノ場合ニ於テハ郡總代ハ關係者ノ申立ニ因リ其費用ヲ以テ假リニ水面ヲ裁定スルコトヲ得其裁定ハ權利者ニ對シ裁判判決ニ因テ變スルマテハ其効アルモノトス其裁定ニ對シテハ關係者ヨリ二十一日内ニ行政裁判所ヲ開カンコトノ申立ヲ爲スコトヲ得又其判決ニ對シテハ縣行政裁判所ニ控訴スルコトヲ得其控訴裁判判決ハ通常裁判判決アルマテハ終審ノ効ヲ有ス可シ

第十一條 夏ノ時間ノ最高面ヲ定メタルハ(第六條)何レノ日ニ始リ何レノ日ニ終ルヘキコトヲ調書ニ記載スヘシ(第五條)
此水面及ヒ始終ノ日ヲ定ムルニ付テハ第六條ヨリ第十條マテノ規則ニ從フヘシ

第十二條 水堰仕掛ノ所有者ハ標柱ニ定メタル水面ヨリ高ク水ヲ堰クコトヲ許サス若シ水ノ其定面ヲ超ヘタルハ其所有者ハ水閘ヲ開クカ又ハ横木ヲ取ルカ又ハ臨時ノ障害物ヲ除キ直チニ水ノ流通ヲ爲サシメ定面ニ復スヘシ但所有者ノ費用ヲ以テ爲スヘシ

第十三條 所有者ニ於テ前條ノ處分ヲ怠リタルハ各關係者ノ申立ニ因リ警察官ニテ所有者ノ費用ヲ以テ直チニ前條ノ定面ニ復セシムルノミナラス又所有者ハ之カ爲メ生シタル損害賠償ノ外二十「タ—レル」ヨリ五十「タ—レル」マテノ罰金ニ處セラルヘシ

第三章 新タニ水落仕掛ヲ設ケ及舊仕掛ヲ廣大ニシ及水堰仕掛ヲ取除クニ關スル規則

第十四條 土地ヨリ水ヲ落サントスルカ又ハ湖池ノ水ヲ出サントス

ル所有者ハ耕作ノ爲メ其利益ノ大ナルハ損害賠償ヲ爲シテ他人ノ土地ヲ使用シ自己ヲ以テ其溝水道ヲ作り水流ニ水ヲ落サント又ハ之カ爲メ現在ノ溝ヲ廣メ若クハ深クセンコトヲ求ムルノ權アリ

第十五條 水落仕掛ハ自己ノ目的ヲモ害セス又他人ノ土地ヲモ害セサル所ニ之ヲ設クヘシ建築物及ヒ其家屋間ノ空地ニハ全ク之ヲ設クルコトヲ得ス庭園柵内ノ遊歩場ニハ蔽ヒタル溝水道ヲ設クルコトヲ得ルノミ但現在ノ蔽ヒナキ溝及ヒ其他水流ヲ廣メ若クハ深クセントスルコトハ此限ニ在ラス

第十六條 第十四條ノ損害賠償自費ノコナリ要件アレハ水流ヲ堰ク權ヲ有スル水力仕掛所有者及ヒ水堰仕掛所有者タリトモ水流ノ全部又ハ一部ヲ流シ且或ル場合ニ因テハ全ク其仕掛ヲ取除クヘキ義務アリ但別

ニ水ヲ引クヲ能ハサルモ限ル

第十七條 水ヲ落スヘキ仕掛ニ接スル土地又ハ其仕掛ノ經過スル土地又ハ近隣ノ土地所有者ハ其仕掛ヲ所有スルヲ得

其仕掛ヲ使用セント欲スル者ハ得ル所ノ利益ニ應シテ仕掛ヲ設クル費用及ヒ保存費ヲ拂フヘシ自己ノ利益ノ爲メニ仕掛ヲ變シタルモハ專ラ其費用ヲ擔任スヘシ

仕掛ヲ設ケタル後仕掛ノアル土地ヲ改良スル妨ケト爲ルカ又ハ其他其土地所有者ニ最初設ケシモヨリ妨害ノ甚シキモハ自己ノ費用ヲ以テ之ヲ他ニ轉スルヲ得但之カ爲メ第十四條ノ權ヲ妨ケサルモ限ルヘシ

第十八條 第十四條第十六條ニ從テ水ヲ落サントスル土地所有者ハ

水ヲ堰ク權アル者及ヒ他ノ土地所有者ト協議ヲ遂クルヲ能ハサルモハ郡總代ニ申出ヘシ郡總代ハ其手續ヲ始ムル前ニ申立ノ理由ト爲ルヘキ地圖面。水ノ高低圖面。水落ニ因テ得ヘキ耕作ノ利益ニ關スル鑑定人ノ意見書ヲ差出サシムルヲ得

第十九條 前條ノ申立アリタルモハ郡總代ハ總關係者立會ノ上鑑定委員ヲシテ實地検査ヲ爲サシムヘシ又水落ニ因テ航船又ハ其他公ケノ仕掛ニ損害ヲ生セシムルヤ否ヲモ検査セシムヘシ

第二十條 若シ双方協議ヲ遂ケサルモハ郡總代ハ行政裁判手續ヲ以テ左ノ箇條ヲ判決スヘシ通常裁判所ニ訴フルヲ得ス

一第十四條ヨリ第十七條マテニ定メタル要件ノ有無及ヒ水落ノ圖

面ニ付キ

水利規則

二仕掛設立後圖面ノ改正ニ付キ(第十七條三項)

其判決ニ對シテハ之ヲ言渡シタル後二十一日内ニ縣行政裁判所ニ控訴スルコトヲ得

第二十一條 其手續ヲ始メ關係者ヲ聞糺スル故障ヲ申立ル權若クハ損害ノ償ヲ求ル權ノ有無又ハ其範圍ノ定ラサルルハ双方ヨリ通常裁判所ニ訴フルコトヲ得

併ナカラ郡總代ハ申立人ヨリ第二十二條ニ從テ評定スヘキ損害ノ賠償高ヲ水落仕掛ヲ設クル前ニ裁判所ニ預ケント欲スレハ第十八條ノ手續ヲ繼續センコトヲ決定スルヲ得其決定ニ對シテ二十一日内ニ行政裁判ノ手續ヲ以テ裁判ヲ爲サンコトヲ求ムルヲ得其裁判ハ終審ナリトス

第二十二條 第二十條ニ從テ水落圖面ノ定リタルルハ仲裁裁判所ヲ設クヘシ

仲裁裁判所ハ總關係者ヲ聞糺シタル後其圖面ニ從テ左ノ箇條ヲ裁判スヘシ但關係者間ニ協議ヲ遂クルコト能ハサルルニ限ルヘシ

一關係者數人アルルハ(第十條七)各得ヘキ利益ニ從テ出スヘキ設立費及ヒ保存費ノ高

二現在ノ溝及ヒ其他水流ヲ廣メ又ハ深ムルルハ(第十條四)後來ノ保存ヲ裁定スヘシ

若シ從前保存シ來ル者ニテ保存スヘシト定マルルハ後來増ス所ノ保存費ヲモ成ルヘク損害賠償金ノ内ニ含マシムヘシ(保存者ニ與フルコトナリ)

水利規則

三仕掛ヲ設クル方法及ヒ之ヲ設クルコト

四損害賠償ヲ求ムル權及ヒ與フヘキ賠償金額

如何ナル場合ニ於テモ仕掛ヲ設クル前ニ賠償金ヲ拂フヘシ

第二十三條 仲裁裁判所ハ裁判官三人ヨリ成ルヘシ其一人ハ水ヲ堰ク權アル者又ハ水ヲ經過セシムヘキ土地所有者及ヒ其他損害ノ償ヲ求ムル權アル者ヨリ其多數ニ因テ之ヲ選フヘシ又一人ハ水落仕掛ヲ設ケントスル者ヨリ選フヘシ又一人ハ郡總代ヨリ命スヘシ
仲裁裁判所ハ郡總代ヨリ命シタル裁判官ヲ長ト爲シ多數ヲ以テ決定スヘシ

仲裁裁判官ヲ選フニハ四週間ノ期限ヲ以テ關係者ヲ催促スヘシ若シ其選舉ヲ拒ムカ又ハ申立人中又ハ權利者中ニ於テ其裁判官ニ付

キ協議ヲ遂ケサルカ又ハ關係者ニ催促書ヲ送達シタル後四週間ヲ經ルモ選舉シタル裁判官ヲ申出サルハ其選舉權ヲ失ヒ郡總代ニテ裁判官ヲ命スヘシ又郡總代ハ實地檢査ヲ爲サシムル爲メ委員ヲ命スルヲ得

第二十四條 仲裁裁判官ト爲ルニハ止タ品行正シク且財産所有權ヲ有シ其事件ニ熟練スル者ニシテ普國ノ國民權ヲ有シ且證據人ト爲テ雙方及ヒ其他ノ裁判官ノ利害トナルコトヲ裁判所ニ陳述シ得ル者ヲ選フヘシ

前項ノ性質ヲ具ヘサル裁判官ヲ選ヒタルハ郡總代ニ於テ更ニ選舉スヘキコトヲ決定スヘシ

裁判官ハ止タ後見(商業ノ多忙又ハ其者ト同社員ニテ利益ヲ供ニスルル)ヲ拒ミ得ル理由ヲ以

テ之ヲ拒ムコトヲ得其拒ミタルコトノ正當ナルヤ否ハ郡總代之ヲ決ス
ヘシ郡總代ノ決定ニ對シテハ二十一日内ニ關係者ヨリ行政裁判手
續ヲ以テ裁判ヲ求ムルヲ得其裁判ハ終審ナリトス

第二十五條 仲裁裁判官ハ鑑定人トシテ誓約ヲ爲スヘシ但曾テ誓約
ヲ爲シタル者ナルカ又ハ雙方ヨリ其誓約ヲ免シタルハ此限ニ在
ラス

第二十六條 仲裁裁判所ノ判決ニ對シテハ通常裁判所ニ控訴スルコ
トヲ得ス

併ナカラ裁判ヲ言渡シタル後六週内ニ郡總代ニ訴出テ郡總代ニ
テ仲裁裁判所ノ權限ヲ越エタルカ又ハ其判決ヲ不十分ナリト認め
タルハ對手人ヲ聞糺シタル後郡總代ノ見込ニ從ヒ最初ノ仲裁裁

判所又ハ第二十三條第二十四條ニ從テ新ニ設クヘキ裁判所ニ委任
シテ最初ノ判決ヲ改正又ハ増補セシムル權利義務アリ

郡總代ノ決定ニ對シテハ二十一日内ニ縣行政裁判所ニ控訴スルコ
トヲ得

第二十七條 鑑定委員(第十條九條)及ヒ仲裁裁判官(第二十三條三條)千八百三十六年
四月二十五日ノ費用規則第三條及ヒ其増補規則ニ從テ正金立替旅
費日賄料ヲ求ムルヲ得其權利ニ付テハ郡總代之ヲ決定スヘシ其決
定ニ對シテハ二十一日内ニ關係者ヨリ行政裁判手續ヲ以テ裁判ヲ
爲サンコトヲ求ムルヲ得其判決ハ終審ナリトス

第二十八條 一切ノ費用ハ水落仕掛ヲ申立ル者及ヒ其仕掛ヲ使用セ
ントスル者(第十四條第十條七條第十八條)ニテ得ヘキ利益ニ應シ負擔スヘシ控訴裁

判所ノ費用ハ敗訴者ニテ擔當スヘシ

第四章 水落仕掛ニ關スル公告及ヒ期滿失權ノ手續

第二十九條 千八百四十六年一月二十三日ノ公告及ヒ期滿失權ノ法律ハ此法律ニモ亦適用スヘシ

第五章 附錄

第三十條 土地義務解放役所ノ事務ニ附屬シタル水ノ經過ニ關スル事件ヲ定ムル權限ハ此法律ニ因テ變セラル、コナシ

第三十一條 泥ヲ浚へ及ヒ保存ノ義務ヲ怠ルカ爲メ(第一條第二十二條)又ハ土地ヲ經過スル仕掛ヲ損壞シテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ之カ爲メ賠償ヲ爲スヘシ

其賠償ヲ爲スヘキ義務及ヒ其價格ニ付テハ通常裁判所ニテ之ヲ裁

判スルノミ

第三十二條 都テ此法律ニ抵觸スルモノハ廢止タルヘシ

水落仕掛ニ關スル公告及ヒ期滿失權規則千八百四十六年一月二十三日

千八百四十三年二月廿八日私有川ヲ使用スル規則第十九條ヨリ第十二條マテニ於テ灌水仕掛ニ關スル公告手續ヲ定メタレトモ未タ水落仕掛ニ關スル手續ヲ定メタル規則ナケレハ茲ニ其規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 水落仕掛ノ起業者ハ左ノ場合ニ於テ如何ナル民法上ノ故障又ハ損害賠償ノ權アルヤヲ保證セシメン爲メ警察官ノ仲裁ヲ求ムル權アリ

水利規則

一 落サントスル水ニ付キ水ヲ落サントスル所有地ニ付キ水道ニ用フヘキ所有地并ニ他人ノ土地ニ付キ處分ヲ爲サントスルカ又ハ已ニ處分ヲ爲シタル場合

二 仕掛ヲ設ケタルニ因リ減スヘキ水面又ハ已ニ減シタル水面ニ關スル場合

第二條 前條ノ仲裁ヲ求メントスル者ハ地圖面ト水ノ最高低面ヲ記シタル圖ヲ管轄郡總代ニ差出シ水落仕掛ノ公告ヲ爲サシムヘシ其土地ノ數郡ニ跨リタルハ千八百七十六年七月二十六日地方行政權限法第二十一條ニ從テ長タル官署ニテ其手續ヲ爲スヘキ郡總代ヲ定ムヘシ

第三條 其公告ハ左ノ如ク爲スヘシ

一 水落仕掛ノ經過シ且其水ノ流通スル縣ノ公告紙ヲ以テ三度公告スヘシ

二 郡ノ公告紙アルハ同ク三度公告スヘシ

三 水ヲ落ス土地所在ノ團結及ヒ其團結ニ接スル團結ニテ揭示場ニ公告スヘシ又ハ其他ノ方法ヲ以テ爲スヘシ其公告ニハ圖面ヲ檢覽セシムル郡總代ノ官署ヲ示スヘシ又其公告ニハ第一ノ公告ヨリ三ヶ月内ニ故障又ハ損害ノ償ヲ郡總代ニ申出ツヘキ催促ヲ爲スヘシ

其催促ニハ定メタル期限内ニ申出サルモノハ水ヲ落スヲ及ヒ之カ爲メニ減スヘキ水面又ハ已ニ減シタル水面ニ付並ニ故障又ハ損害賠償ヲ求ムル權ヲ失フヘキヲ及ヒ水ヲ落スヘキ土地又ハ水

水利規則

道ニ用フル土地ニ付テハ其仕掛ニ對シ故障ヲ爲ス權ヲ失ヒ止タ
損害ノ償ヲ求ムヘキコトヲ示スヘシ

第四條 水道ノ經過スル土地所有者ハ其後更ニ水ヲ導ク爲メニ受ケ
タル損害ニ付テハ此公告ノ爲メ償ヲ求ムル權ヲ失フニ非ス

第五條 申出ヘキ期限ノ^(第三條)經過シタル後ハ郡總代ハ其公告ノ方式
ニ適ヒタリト認メタレハ申出タル者ノ權利ヲ認メ申出サル者ノ權
判ヲ失ハシムル裁定ヲ爲スヘシ

第六條 其裁定ノ寫ヲ申立人ニ交付シ又其寫ハ裁定ヲ爲シタル郡總
代ノ記録掛ニ於テ衆人ノ縦覽ニ供スヘシ縦覽ニ供スルコトハ縣ノ公
告紙ヲ以テ一度公告スヘシ

又第三條ノ第一ニ從ヒ他ノ縣ニ公告ヲ爲シタルハ其縣ノ公告紙

ヲ以テ縦覽ニ供スヘキコトヲ一度公告スヘシ

第七條 其裁定ニ對スル期限^{改正ノ申立ハ縣ノ公告ヲ爲シタル}

^{レステツチヲシテ}翌日ヨリ六週間内ニ裁定ヲ爲シタル郡總代ニ爲スヘシ郡總代

ハ行政裁判手續ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ其裁判ニ對スル控訴ハ縣行
政裁判所ニテ終審裁判ヲ爲スヘシ

第八條 申立人ハ其手續ニ付キ一切ノ費用ヲ擔任スヘシ其費用トハ
正金立替ニ限ルモノニシテ手数料印紙料ヲ取立ルコトヲ得ス

水ニ關スル組合ヲ作ル規則^{千八百七十九年四月一日發}

第一章 總則

第一條 水ヲ使用保存スル爲メ及ヒ土地ヨリ水ヲ落シ又ハ土地ニ水

水利規則

ヲ引ク爲メ及ヒ水岸ヲ防護スル爲メ及ヒ水流又ハ水溜ヲ作り使用
保存スル爲メ及ヒ水路(筏ノ用)及航船ノ仕掛ヲ設ケ及ヒ改正スル
爲メ此規則ニ從テ組合ヲ作ルコトヲ得

第二條 堤防及ヒ其附屬トシテ堤防組合ヨリ設クル水落仕掛ニハ此
規則ヲ適用スヘカラス

第三條 本條ハ無用ニ屬スレハ略ス

第四條 契約ニ因テ設ケタル組合ヲ私立組合トシ政府ノ官署ノ決定
ニ因テ設ケタル組合ヲ公立組合トス

第五條 此組合ニハ直チニ其事業ニ加ハル土地所有者ノ外止タ起業
ニ關係スル團結、區、郡其他ノ自治團結並ニ堤防組合田畑改良組合
ニ限リ其社員タルコトヲ得ルナリ

第六條 此規則ニ云フ所ノ土地所有者トハ亦土地ニ付キ制限ナキ使
用權ヲ有スル者(小作人ノ類)モ含蓄スルモノトス

第七條 組合ハ國內ニ於テ其所在ノ地ヲ有スヘシ

第八條 組合ノ關係ハ規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 組合ハ頭取ヲ設ケテ一切組合ノ事件ヲ代理セシムヘシ

第十條 組合ハ組合ノ名ヲ以テ權利ヲ得義務ヲ負ヒ土地ノ所有權及
ヒ其他使用權ヲ得又ハ裁判所ニ訴ヘ出テタリ又ハ訴ヘラル、コトヲ
得又組合ハ組合所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ヲ管轄裁判所トス

第二章 私立組合

第十一條 私立組合ヲ作ル契約(組合規則)ハ裁判所又ハ公證人ニテ
作ラシムヘシ

第十二條 組合規則ニハ左ノ箇條ヲ掲クヘシ

- 一 組合ノ稱號及ヒ所在ノ地
- 二 組合ノ目的但其事業ヲ起ス趣向ヲ掲クヘシ
- 三 其事業ニ關係スル土地又ハ其一部ノ詳細但地券證及ヒ公證シタル圖面ヲ添フヘシ
- 四 組合ノ年限但期限ノ定メアル限ニ限ル
- 五 社員ノ義務
- 六 利益及ヒ義務並投票權ニ加ハル關係
- 七 頭取ノ選舉編制法及ヒ權限又ハ頭取及ヒ其代理人ヲ認ムル方法
- 八 社員ヲ集ムル方法
- 九 出席シタル社員ノ過半数ヨリ多キ投票又ハ其他ノ要件ヲ必要ト

スル事件

十 組合ノ事件ヲ公告スル方法及ヒ其公告紙

十一 組合規則ヲ改正スルニ付キ要件

十二 入社退社ノ要件及ヒ解社ノ要件

第十三條 組合規則及ヒ社員氏名簿ハ組合所在ノ地ニ於テ商人登記簿ヲ備フル裁判所ニ頭取ヨリシテ之ヲ差出シ裁判所ニ於テハ水ニ關スル組合登記簿ニ登記スヘシ

第十四條 登記簿ハ公衆ノ檢閲ニ供スヘシ通常職務時間内ナレハ何人ニテモ之ヲ檢閲スルコトヲ得又其費用ヲ拂ヒ其寫ヲ求ムルコトヲ得其寫ハ求ニ因テハ公證スルコトヲ得登記簿ヲ備ヘ置クコトニ付キ細則ハ此規則ノ施行法ニ定ムヘシ

第十五條 登記シタル後ハ裁判所ハ左ノ簡條ヲ公告スヘシ

一 組合規則ノ年月日

二 組合ノ稱號所在ノ地及ヒ目的

三 期限ヲ定メタル組合ナレハ其年月

四 當時頭取タル者ノ氏名住所

五 組合事件ノ公告紙

第十六條 組合ハ登記簿ニ登記シタル後此規則ノ權利ヲ得ヘシ

第十七條 管轄裁判所ニ組合規則ヲ差出シタル後入社スル者アレハ

入社後十四日內ニ頭取ヨリ裁判所ニ届出ヘシ

第十八條 頭取ハ其退職又ハ新任シタル者ヲ十四日內ニ登記ノ爲メ

届出ヘシ

第十九條 組合規則ヲ變スルニハ裁判所又ハ公證人ヲシテ之ヲ作ラ

シメ且十四日內ニ其決定書ヲ以テ管轄裁判所ニ届出ヘシ

組合規則ヲ變スル決定（裁判所ニ付テハ始メ規則ヲ作りタルキト同

一ノ手續ニ從フヘシ公告ハ止タ先キニ公告シタル所ト異ナル所ノ

ミヲ公告シテ足レリトス

其決定ハ登記簿ニ登記スルマテハ他人ニ對シ其効ナシ

第二十條 組合ノ決定又ハ此規則又ハ組合規則ニ背キタル頭取ハ之

カ爲メ生シタル損害ニ付各別ニ其責ヲ負フヘシ

第二十一條 頭取ハ組合ノ爲メニ必用ナルキニハ直チニ社員ヲ集ム

ヘシ就中社員ノ財産ニ對シ執行ノ効ナキキニ召集スヘシ

第二十二條 社員五分ノ一ノ申立アレハ（人ノ數ニ從フカ又ハ）頭取ヨ

リ社員ヲ召集スヘシ十四日内ニ召集セサルカ又ハ四週間外ニ集會ノ期日ヲ定メタルハ申立人ハ公證人ヲシテ社員ヲ召集セシムル權アリ

公證人ハ組合規則ニ從テ召集シ出席シタル者ノ正當ナルヤ否ヲ認メ（社員カ社員ニ非サルコトヲ檢スルコト）且組合ヲ總括スヘシ其集會ニ於テハ

- ④ 頭取ニ對シ訴訟ヲ起スカ爲メ組合ノ代理人ヲ命シ
- ⑤ 頭取ヲ免シ且新選舉ヲ爲スノ權アリ

第二十三條 頭取ノ任命ハ何時タリトモ組合ノ決議ニ因リ之ヲ解免スルコトヲ得但契約上ノ損害賠償ヲ求ムル權ヲ妨ケス
頭取ヲ免シ（第二十二條）又ハ其任ヲ解クヘギ決定ハ組合規則ニ別ニ定メ

ナケレハ總社員ノ三分ノ二ノ多數ニ因テ決シタルニ非サレハ其効ナシ

第二十四條 組合ノ負債ニ付テハ其財産ニテ其責ヲ負フヘシ

其財産ヲ以テ債主ノ償還ニ不足スルハ組合ハ出金ヲ爲サシメテ其義務ヲ盡スヘシ其出金ハ頭取又ハ精算掛（三十四條以下）ヨリ組合規則ニ定メタル割合ニ從テ社員ヨリ取立テ場合ニ因テハ訴ヲ爲シテ之ヲ取立ヘシ

其出金ヲ取立ルカ爲メ社員ニ對シ執行スルモ其全部又ハ一部ヲ得ルコト能ハサルハ不足分ハ前項ト同一ノ方法ニ從テ其他ノ社員ニ割付クヘシ又社員ノ財産ニ付キ家資分散裁判ノ始リタルハモ亦同シ但組合ヨリ其分散手續ニ付テ出金ヲ求ムル權ヲ妨ケス

第二項ノ義務ヲ盡ス爲メ執行スヘキ場合ニ於テハ他人ニ委任シテ頭取ノ事務ヲ行ハシムルヲ得

代理人ハ第二十二條ノ二項ニ從テ社員ヲ召集スル權アリ

入社スル者ハ入社前ノ社ノ負債ニ對シ其責ヲ負フヘシ但之ニ反スル契約ハ他人ニ對シ其効ナシ

第二十五條 社員ノ債主ハ社ノ財産ニ屬スル物件權利ヨリシテ負債

ノ償却又ハ保證ヲ求ムル權ナシ又社ノ貸付金ト社ノ負債者ノ社員ニ對スル貸付金ト差引勘定ハ社ノ成立ツル間ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 前條ノ規則ハ亦社員ノ財産ニ付質入書入ノ權ヲ有スル債主ニモ適用スヘシ

其質入書入ノ權ハ社ノ組合ニ關スル財産ノ物件權利又ハ其割合高

ニハ及ハス

社員ヨリ組合ニ物件ヲ入レ(金ノ代リニ爲シタルモナリ)タルハ已ニ附着書入質入ノ權利スル權利ハ離ル、者ニ非ス

第二十七條 事業ニ加ハリタル土地所有者ニ變リアルハ其新所有

者ハ法律上ヨリ前ノ所有者ニ代リ組合ノ社員タルヘシ

其土地ノ特權ヲ有スル相續人トシテ讓受ケタルハ入社ノ前ノ組合ノ負債ニ付キ止タ特權ヲ有スル相續人ノ責ヲ負フノミ民法ニ於テ共通財産ノ負債ニ付其婦ノ責ヲ制限シタルモノハ第一項ノ規則

ニ因テ變セラル、コナシ

第一項ノ規則ハ登記シタル債主及土地附屬ノ權利者ノ權ヲ害スルコトナク執行ノ片左ノ制限ヲ以テ適用スヘシ

水利規則

公賣スヘキ土地所有者ノ入社前ニ登記シタル書入權及ヒ土地附着ノ負債及ヒ其他土地附着ノ權利者ニ其賣高ヲ以テ其負債ヲ償却スルニ不十分ナル時ハ關係者ヨリ其土地ヲ買フタル者ノ社員タルノ義務ヲ有セスシテ其土地ヲ公賣センコトヲ求ムル權アリ

第二十八條 民法ニ於テ登記シタル土地ニ附着スル權利(書入)ノ他人

ニ對スル効力ヲ定メタルモノハ第二十四條ヨリ第二十七條ニ因テ變セラル、コナシ

頭取ノ申立ニ因リ組合規則ニ掲ケタル土地(第十二條第三)ノ關係ヲ土地登記簿ニ附記スヘシ頭取ハ組合規則ヲ登記シタル後二週間内ニ其申立ヲ爲スヘシ

前項ノ規則ハ從來事業ニ加ハラサル土地ヲ以テ新ニ入社シタル時

ニ適用スヘシ(登記簿ニ登記スヘキ事)

第二十九條 社員ノ退社シタル時ニハ頭取ヨリ退社後十四日內ニ管轄裁判所ニ届出ヘシ社員ヨリ届出タル時ハ管轄裁判所ハ其退社シタルコトヲ登記簿ニ附記シテ之ヲ頭取ニ通知スヘシ

其附記ハ頭取ノ認メニ因ルカ又ハ裁判判決ニ因リ後日其退社ヲ有効ノモノト認ムヘキ場合ニ於テ社員ノ權利ヲ保證スルナリ

第三十條 退社シタル者ハ退社ノ時已ニ社ノ負ヒタル負債ハ退社ヲ公告シタル後二年ノ間ハ他ノ社員ト等シク其責ヲ負フヘシ

第二十七條ノ第一項ニ因テ退社シタル時ハ退社シタル者ハ前項ト同期限止タ第二十四條六項ニ掲ケタル義務ヲ跡續人ニテ盡ス可能ハサル時ニ負フヘシ

第三十一條 組合ハ左ノ場合ニ於テ解社スヘシ

一 組合規則ニ定メタル年限ノ経過シタルニ因リ

二 組合ノ決議ニ因リ

三家資分散ニ因リ

第三十二條 解社ハ家資分散ノ爲メニ非サレハ頭取ヨリ登記ノ爲メ

十四日內ニ届出ヘシ又同一ノ期限内ニ二度公告紙ヲ以テ公告スヘ

シ其公告ニハ又債主ヨリ一年間ニ精算掛ニ申出ヘキコトヲ催促スヘ

シ但精算掛ノ氏名ヲ記スヘシ申出サル者ハ財産ノ分配ニ加ハラシ

メス

第三十三條 家資分散裁判ヲ開キタルキハ其裁判所ハ職務上ヨリ登

記簿ニ其旨ヲ登記スヘシ第十二條ノ第十ニ掲ケタル公告紙ヲ以テ

其登記ヲ公告スルニ及ハス其裁判所ニ登記簿ヲ備ヘサルキハ其裁

判所ヨリ管轄裁判所ニ登記ノ爲メ其旨ヲ通知スヘシ

第三十四條 分散ニ因ラスシテ解社シタルキハ頭取ヨリ又ハ組合規

則若クハ組合ノ決定ニ因テ任シタル者ヨリ精算ヲ爲スヘシ

第三十五條 精算掛ノ氏名ハ頭取ヨリ精算掛ニ退職スル者アルカ又

ハ其委任ノ解ケタルキハ其他ノ精算掛ヨリ十四日ノ間ニ登記ノ爲

メ管轄裁判所ニ届出ヘシ

第三十六條 精算掛ヲ命スルコト精算掛ノ退職スルコト又ハ其委任ノ解

ケタルコトハ之ヲ登記簿ニ登録スルカ又ハ他人ニ於テ知ルニ非サレ

ハ其他人ニ對シ効ナシ

第三十七條 精算掛ハ事務ノ結局ヲ付ケ社ノ義務ヲ盡シ貸金ヲ取立

財産ヲ封印スヘシ又精算掛ハ裁判所内外ニ於テ社ヲ代理スヘシ又社ノ爲メニ協議ヲ遂クルコトヲ得又精算掛ハ着手シタル事務ノ結局ヲ付クルカ爲メ新ニ契約ヲ結フコトヲ得然レモ不動産ヲ賣捌クニハ組合ノ規則カ又ハ決定ニ因テ別ニ定メナケレハ必ス公賣ヲ以テ爲スヘシ

第三十八條 精算掛ノ權限ヲ制限スルトモ(第三十七條ニ掲ケタル權限)他人ニ對シテハ其効ナシ

第三十九條 精算掛數人アルモ各別ニ其事務ヲ主トリ得ルコトヲ明カニ定メタルニ非サレハ必ス共ニ其事務ヲ主トルヘシ

第四十條 精算掛ハ組合ノ決定ニ從テ其事務ヲ主ルヘシ若シ其決定ニ背キタルモ之カ爲メ生シタル損害ニ付各別ニ其責ヲ負フヘシ

第四十一條 社員ニ社ノ財産ヲ分配スルコトハ其社ノ負債ヲ償却シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

返却スヘキ期限ノ未タ來ラサル負債又ハ争ヒノ起リタル負債ノ爲メニハ其期限ノ來ルマテ又ハ落着マテ相當ノ金額ヲ殘シ置クヘシ

第四十二條 解社後ト雖モ其精算ヲ終ルマテハ社員相互ノ關係並ニ社員ト他人トノ關係ニ付テハ組合規則及ヒ此規則ヲ遵奉スヘシ但精算ノ爲メ其規則ニ從フコト能ハサル者ハ此限ニ在ラス

解社以前ノ管轄裁判所ハ精算ヲ終ルマテハ其社ノ管轄ヲ爲スヘシ
社ニ送達スル文書ハ精算掛一人ニ送達スレハ其効アリ

第四十三條 精算ヲ終リタル後ハ社ノ帳簿及ヒ書類ヲ社員タリシ者又ハ他人ヲシテ保存セシムヘシ其保存スヘキ者ニ付契約ナケレハ

管轄裁判所ヨリ之ヲ定ムヘシ社員タリシ者及ヒ其相續人ハ帳簿ヲ
檢閲使用スル權アリ

第四十四條 組合登記簿ノ登記手數ハ其費用ヲ取ラス

第三章 公立組合

一 都テノ組合ニ適用スヘキ規則

第四十五條 公立組合ヲ設クルニハ公益又ハ一般耕作上ノ利益アル
ヲ證スヘシ其利益ノ有無ハ組合規則ヲ認ムルヲ因テ終審ノ裁
定ヲ爲スヘシ

第四十六條 第六十五條ノ場合ノ外ハ何人ニテモ強テ其組合ニ入ラ
シムルヲ得ス

第四十七條 團結又ハ組合ノ公立組合ニ加入スルニハ政府ノ許可ヲ

要セス世襲土地所有者ハ男子血統ノ嫡子ノ許可ナクトモ組合ニ入
ル權アリ

第四十八條 社員ノ投票權ハ組合規則ニ於テ其數ヲ定ムヘシ但三人
以上ノ社員アル組合ニ於テハ其社員ハ總投票ノ五分ノ二以上ヲ有
ス可カラス(土地ヲ追々買入ル、片ハ投票權ノ漸々増加スヘシト雖モ一人ニテ五分ノ二以上ヲ有ス可カラス)

第四十九條 公立組合ハ政府ノ監督ニ付スヘシ

其監督ハ組合規則及ヒ法律ニ從テ其事務ヲ主トラシムルニ限ルヘ
シ但其監督權ハ法律ニ於テ團結ヲ監督スル官署ニ與ヘタル權限ヲ
以テ監督スヘシ

其監督ハ新タニ水路(筏ニ用フル)ヲ造リ又ハ之ヲ改良スル組合及ヒ其他
航船ノ仕掛ニ關スル組合ニ於テハ縣廳及ヒ州長其他ノ組合ニ於テ

水利規則

ハ郡總代(郷總代)及ヒ縣輔佐官ニテ爲スヘシ管轄官署ハ組合所在ノ地ノ官署ナリ

第五十條 組合ニ於テ法律又ハ組合規則ニ定メタル義務(負債)及ヒ費用ヲ會計豫算表ニ掲ケ又ハ臨時許可スルコトヲ怠ルカ又ハ拒ミタル并ハ監督官署ハ理由ヲ付シタル命令ヲ發シテ豫算表ニ之ヲ掲ケシメ又ハ臨時費用ヲ確定スルヲ得

郡總代ノ命令又ハ確定ニ對シテハ其監督ヲ受クル組合ヨリ二十一日内ニ行政裁判ヲ爲サン申立ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 不動産ヲ賣拂ヒ又ハ負債ヲ増シ起スニハ監督官署ノ許可ヲ得ヘシ

又組合規則ニハ其他ノ場合ニモ許可ヲ受クヘキコトヲ定ムルヲ得

第五十二條 組合ノ負債ニ付テハ組合ノ財産ヲ以テ其責ニ任スヘシ其財産ヲ以テ組合ノ債主ニ償却スルコト能ハサル并ハ出金ヲ爲サシムヘシ其出金ハ頭取ヨリ組合規則ニ定メタル割合ヲ以テ社員ニ割付クヘシ

其出金スヘキ義務ハ公ケノ義務ト同様ニ看做スヘシ其義務ハ事業ニ加ハリタル土地ノ組合規則ニテ擔任スヘキ割合(第五十六條第六條)ニ從テ土地ニテ其責ヲ負フヘシ強テ此土地ヲ公賣セシムルニハ淹怠シタル出金ノ爲メニハ之ヲ爲スコトヲ得

組合ニ加ハリタル土地ヲ分割スルニハ其土地ノ義務モ亦相當ニ分割スヘシ(第五十六條第七條)

第五十三條 組合ニ屬スルコト就中義務ヲ負擔スルコトニ付キ争ノ社ト